野村医院旧診療所（オールドクリニック）医学資料の保存と地域活動

野村医院　野村信介

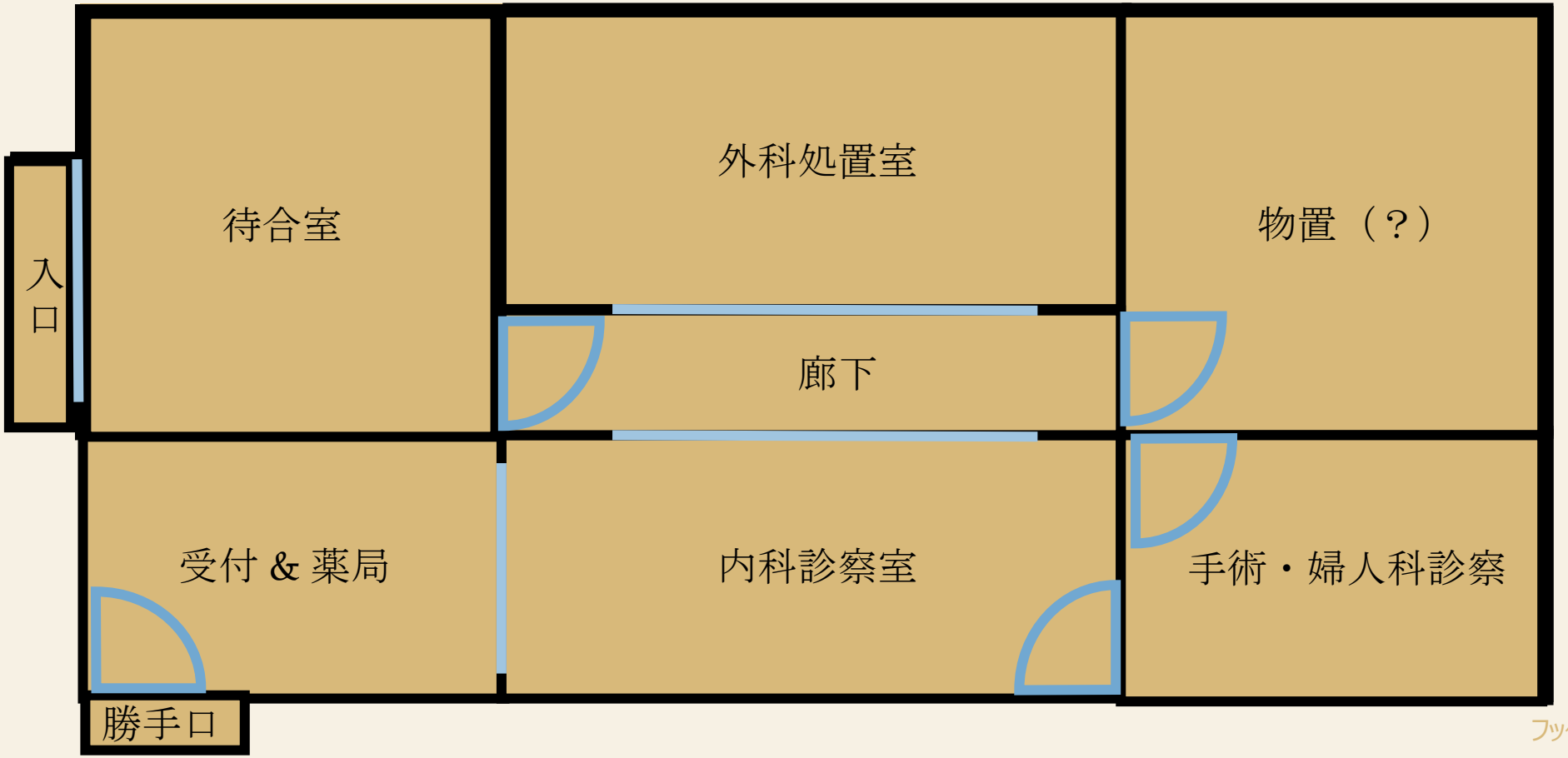
日本医史学会関西支部2023年秋季学術集会　令和5年12月3日

2014年頃から
傷みが目立ち、
修復開始。

2016年頃から
コンサートや
勉強会や
地域の高齢者サロン

平成31年(2019年)
登録有形文化財登録

木造平屋建て　瓦葺　建築面積87㎡



待合室
外科処置室
物置（？）
廊下
受付&薬局
内科診察室
手術・
婦人科診察

野村医院 開院 125 周年 記念講演会

「江戸時代から明治時代の医学 ―野村千太郎の軌跡から―」

講師 猪飼祥夫先生

猪飼鍼灸院長 日本医史学会関西支部長

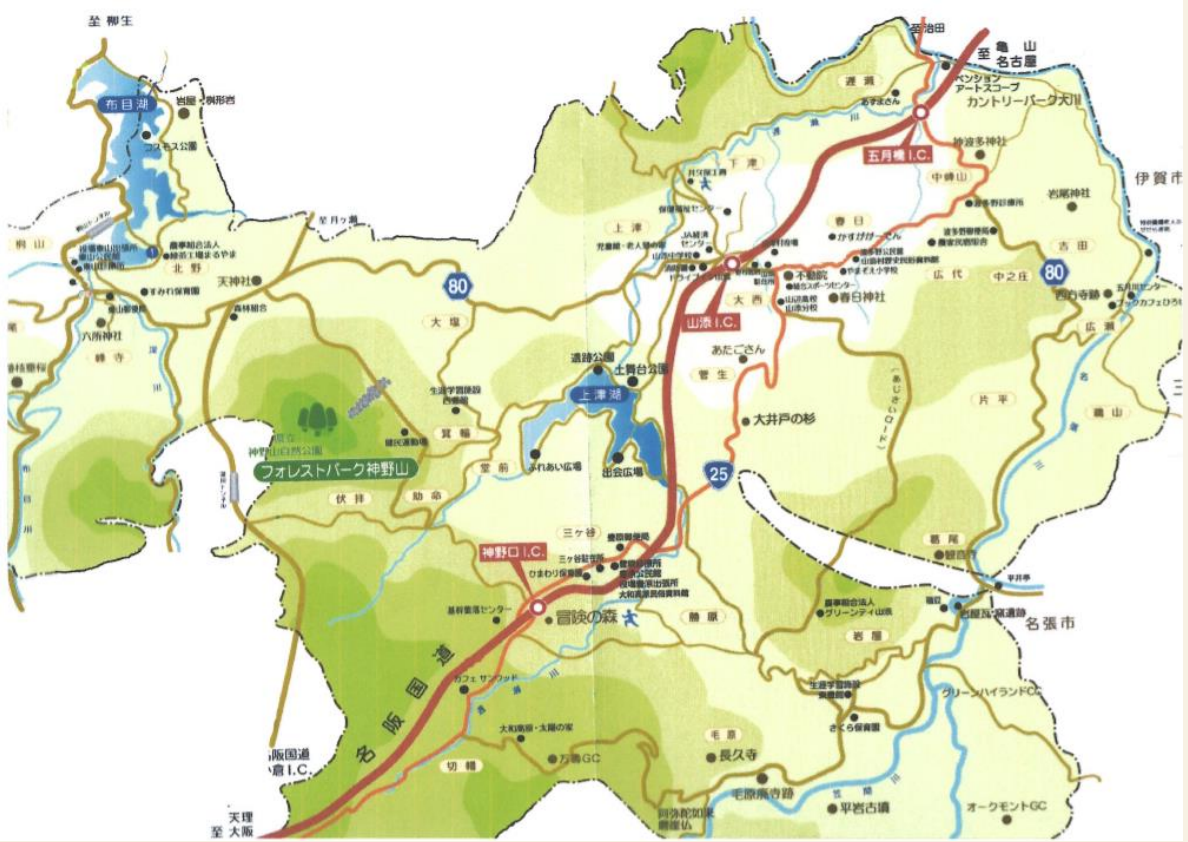
令和 5 年 4 月 23 日(日曜) 午後 1 時から約 90 分

場所 オールドクリニックにて

定員 20 名 会費 無料 事前申し込みが必要です。

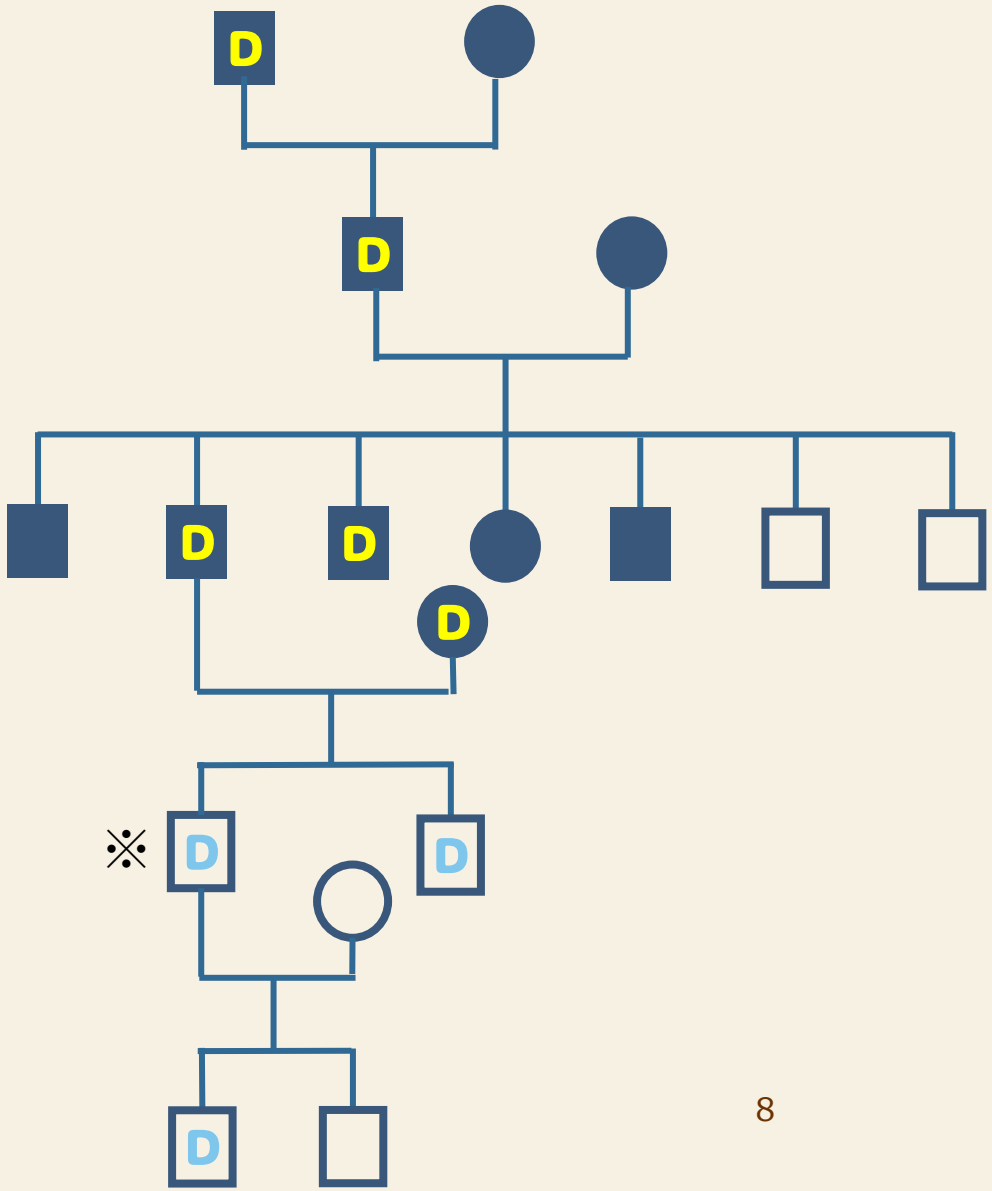
電話 0743-85-0439 メール nomclinic@outlook.jp

奈良県山辺郡山添村大西

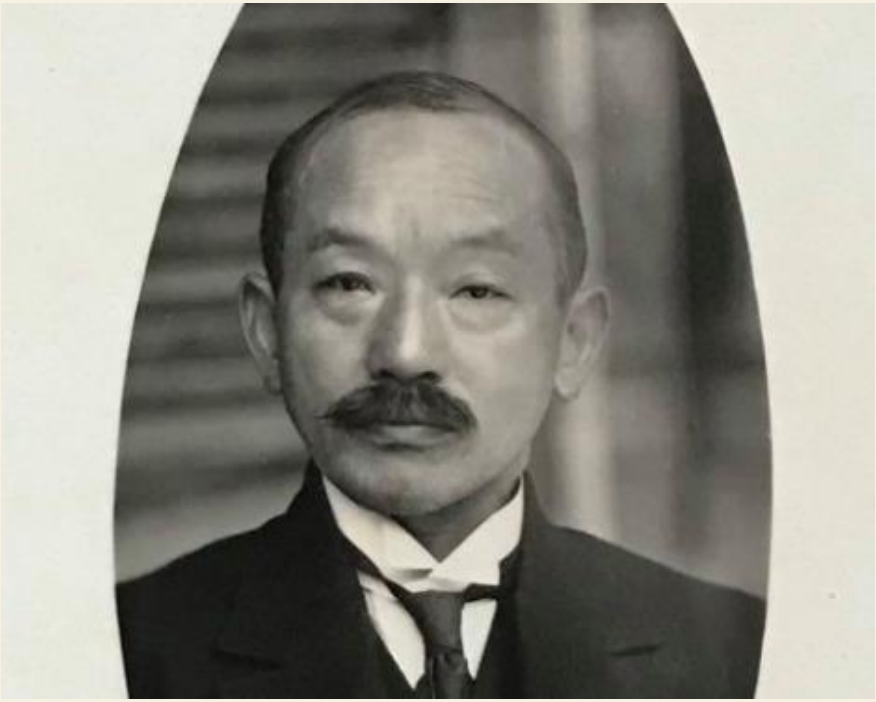


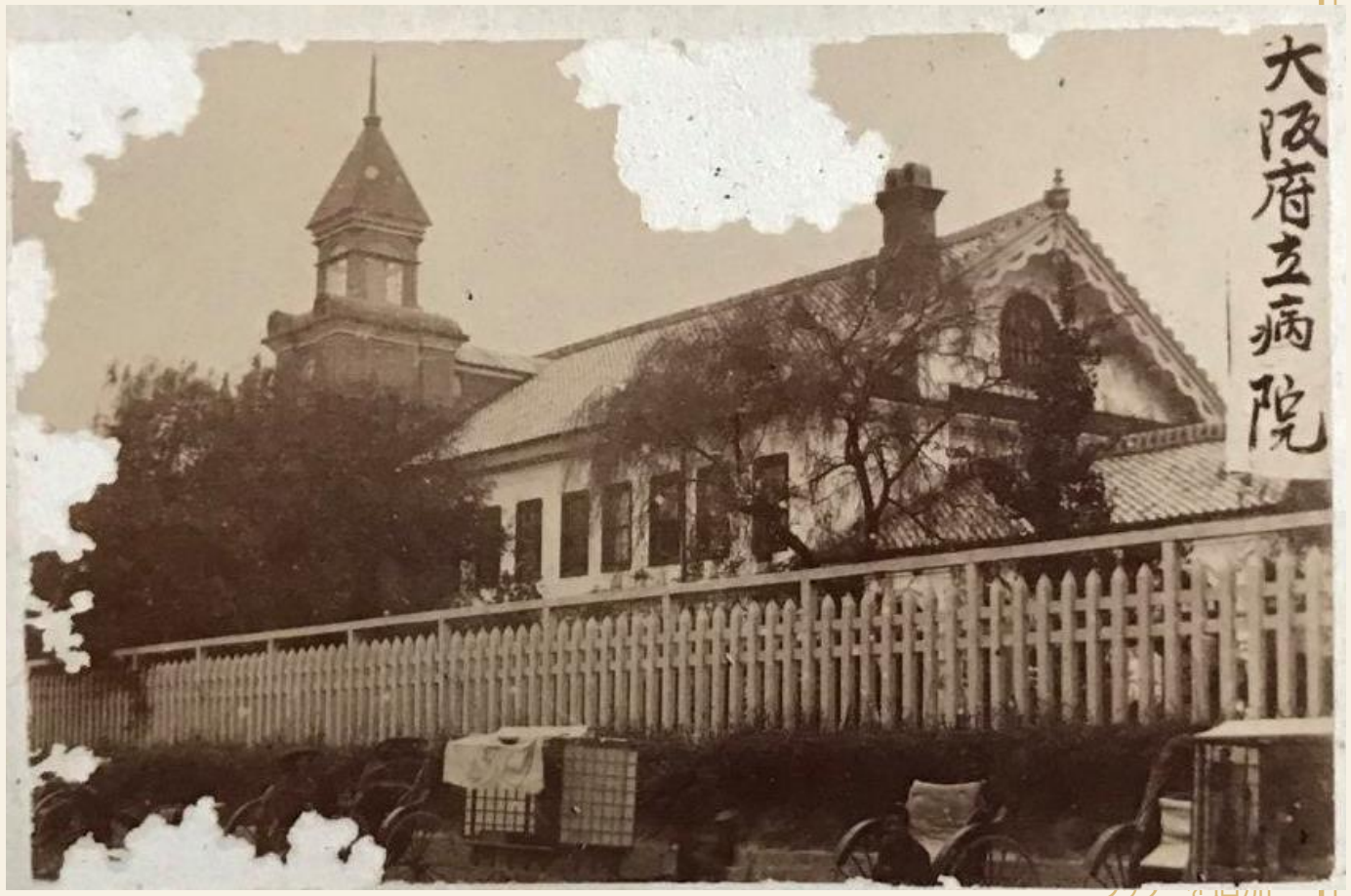
フッターを追加

野村家系図



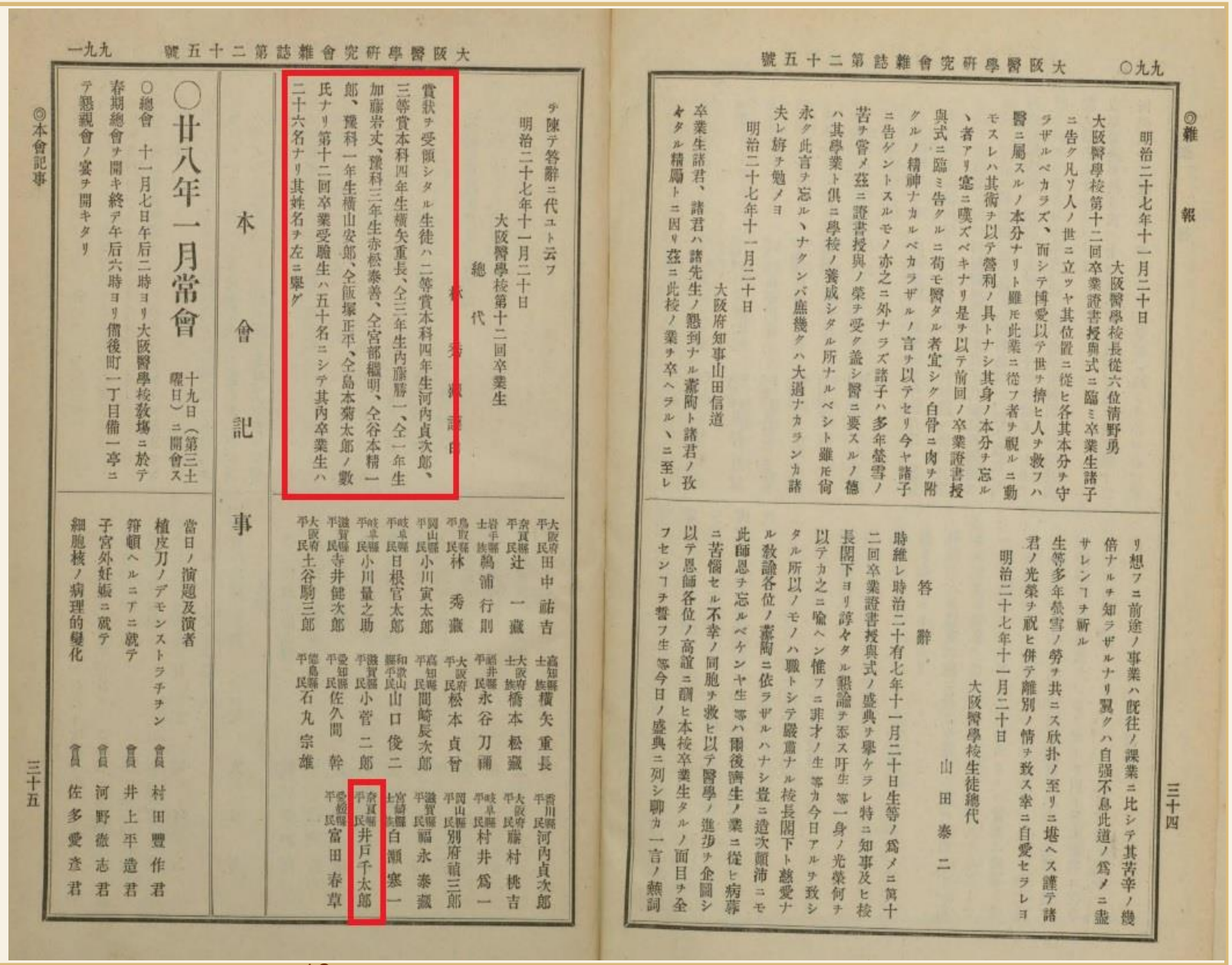
初代院長　千太郎　明治2年生まれ
大阪府立医学校　　明治27年卒





『大阪醫學研究会雑誌』25号
明治27年11月20日の卒業証書授与式。
卒業受験生は50名。
そのうち卒業できたの26名。

名簿は「井戸」姓。



◎雜報

明治二十七年十一月二十日

大阪醫學校長從六位清野勇

大阪醫學校第十二回卒業證書授與式ニ臨ミ卒業生諸子ニ告ク凡ソ人ノ世ニ立ツヤ其位置ニ從ヒ各其本分ヲ守ラザルベカラズ、而シテ博愛以テ世ヲ救ヒ人ヲ救フハ醫ニ屬スルノ本分ナリト雖モ此業ニ從フ者ヲ視ルニ動モスレハ其術ヲ以テ營利ノ具トナシ其身ノ本分ヲ忘ルヽ者アリ寔ニ嘆ズベキナリ是ヲ以テ前回ノ卒業證書授與式ニ臨ミ告グルニ苟モ醫タル者宜シク自骨ニ肉ヲ附クルノ精神ナカルベカラザルノ言ヲ以テセリ今ヤ諸子ニ告ゲントスルモノ亦之ニ外ナラズ諸子ハ多年螢雪ノ苦ヲ嘗メ茲ニ證書授與ノ榮ヲ受ク蓋シ醫ニ要スルノ德ハ其學業ト俱ニ學校ノ養成シタル所ナルベシト雖モ尚永ク此言ヲ忘ルヽナクンバ庶幾クハ大過ナカランカ諸夫レ旃ヲ勉メヨ

明治二十七年十一月二十日

大阪府知事山田信道

卒業生諸君、諸君ハ諸先生ノ懇到ナル薫陶ト諸君ノ孜々タル精勵トニ因リ茲ニ此校ノ業ヲ卒ヘラルヽニ至レリ想フニ前途ノ事業ハ既往ノ課業ニ比シテ其苦辛ノ幾倍ナルヲ知ラザルナリ翼クハ自强不息此道ノ爲メニ盡サレンコヲ祈ル

生等多年螢雪ノ勞ヲ共ニス欣抃ノ至リニ堪ヘス謹テ諸君ノ光榮ヲ祝ヒ併テ離別ノ情ヲ致ス幸ニ自愛セラレヨ

明治二十七年十一月二十日

大阪醫學校生徒總代

山田泰二

答辭

時維レ時治二十有七年十一月二十日生等ノ爲メニ第十二回卒業證書授與式ノ盛典ヲ擧ケラレ特ニ知事及ヒ校長閣下ヨリ諄々タル懇諭ヲ忝ス吁生等一身ノ光榮何ヲ以テカ之ニ喩ヘン惟フニ非才ノ生等カ今日アルヲ致シタル所以ノモノハ職トシテ嚴肅ナル校長閣下ト慈愛ナル教諭各位ノ薫陶ニ依ラザルハナシ豈ニ造次顚沛ニモ此師恩ヲ忘ルベケンヤ生等ハ爾後醫生ノ業ニ從ヒ病葬ニ苦惱セル不幸ノ同胞ヲ救ヒ以テ醫學ノ進歩ヲ企圖シ以テ恩師各位ノ高誼ニ酬ヒ本校卒業生タルノ面目ヲ全フセンコヲ誓フ生等今日ノ盛典ニ列シ聊カ一言ノ蕪詞

◎本會記事

明治二十七年十一月二十日

大阪醫學校第十二回卒業生

總代

秋澤秀瀛

賞狀ヲ受領シタル生徒ハ二等賞本科四年生河内貞次郎、三等賞本科四年生横矢重長、仝三年生内藤勝一、仝一年生加藤岩丈、豫科三年生赤松泰善、仝宮部纖明、仝谷本精一郎、豫科一年生横山安郎、仝飯塚正平、仝島本菊太郎ノ數氏ナリ第十二回卒業受驗生ハ五十名ニシテ其内卒業生ハ二十六名ナリ其姓名ヲ左ニ擧グ

大阪府平民 田中祐吉
奈良縣平民 辻一藏
岩手縣士族 鵜浦行則
鳥取縣平民 林秀藏
岡山縣平民 小川寅太郎
岐阜縣平民 日根官太郎
岐阜縣平民 小川量之助
滋賀縣平民 寺井健次郎
大阪府平民 土谷駒三郎
高知縣士族 横矢重長
大阪府士族 橋本松藏
福井縣平民 永谷刀禰
大阪府平民 松本貞晉
岡山縣平民 別府禎三郎
高知縣平民 間崎長次郎
和歌山縣平民 山口俊二
滋賀縣平民 小菅二郎
愛知縣平民 佐久間幹
德島縣平民 石丸宗雄
香川縣平民 河内貞次郎
大阪府平民 藤村桃吉
岐阜縣平民 村井爲一
大阪府平民 別府禎三郎
滋賀縣平民 福永泰藏
宮崎縣士族 白瀨寒一
奈良縣平民 井戸千太郎
愛知縣平民 富田春草

本會記事

○廿八年一月常會

十九日（第三土曜日）ニ開會ス

○總會　十一月七日午后二時ヨリ大阪醫學校教場ニ於テ春期總會ヲ開キ終テ午后六時ヨリ備後町一丁目備一亭ニテ懇親會ノ宴ヲ開キタリ

當日ノ演題及演者

植皮刀ノデモンストラチヲン　會員　村田豐作君
箝頓ヘルニアニ就テ　會員　井上平造君
子宮外妊娠ニ就テ　會員　河野徹志君
細胞核ノ病理的變化　會員　佐多愛彦君

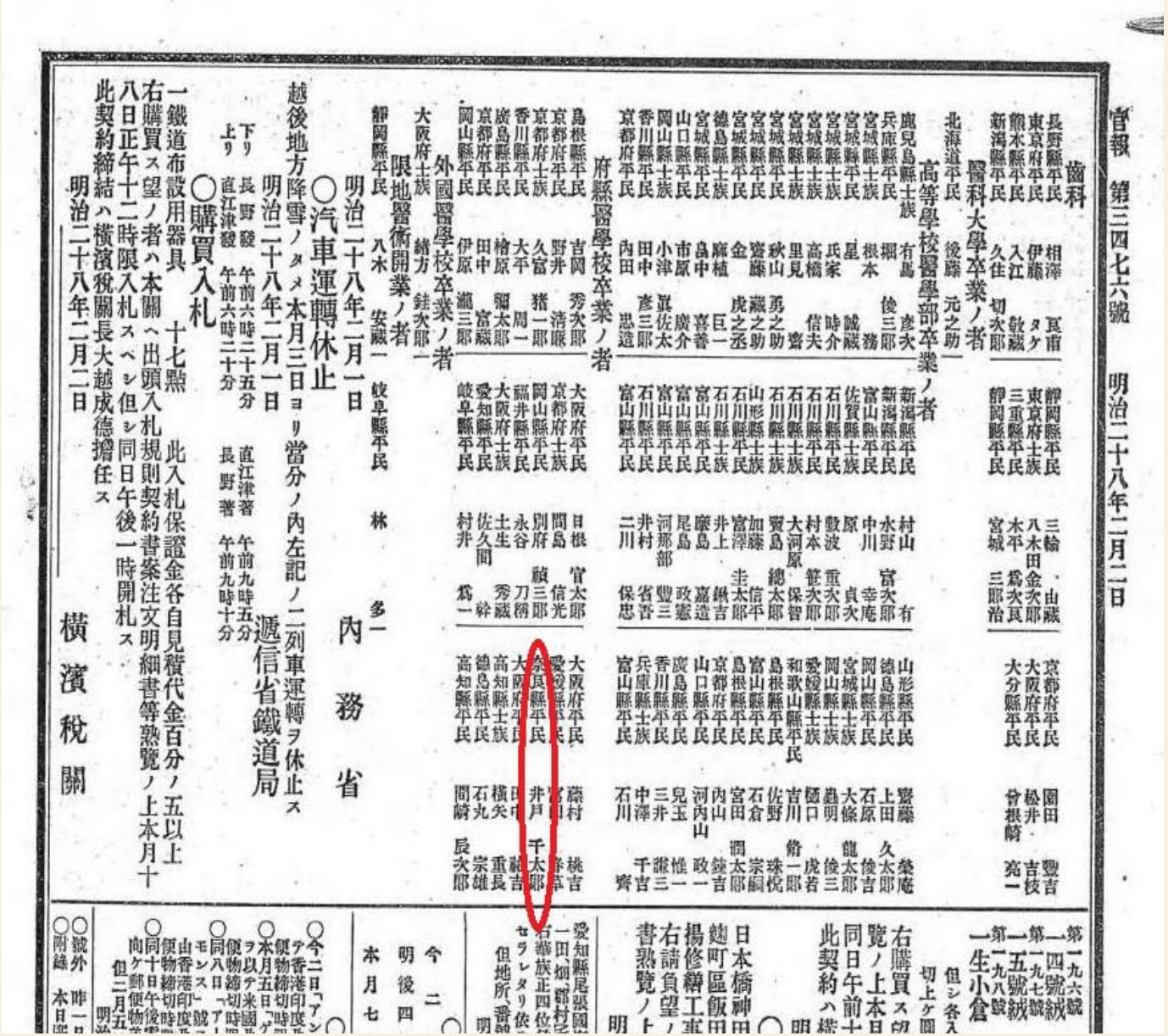
提供　猪飼祥夫先生

官報　第3476号

医籍登録者

明治28年2月2日付

7985号



官報　第三四七六號　明治二十八年二月二日

齒科

長野縣平民　相澤亘
東京府平民　伊藤タケ
熊本縣平民　入江敬藏
新潟縣平民　久住切次郎

醫科大學卒業ノ者

北海道平民　後藤元之助

高等學校醫學部卒業ノ者

鹿兒島縣士族　有馬彦次
兵庫縣平民　堀内俊三郎
宮城縣平民　根本務
宮城縣士族　星誠藏
宮城縣平民　氏家時介
宮城縣士族　高橋信夫
宮城縣平民　里見齋
宮城縣士族　秋山勇之助
宮城縣平民　齋藤藏之助
宮城縣平民　金子虎之丞
德島縣士族　麻植喜善
宮城縣平民　島中巨一
山口縣平民　市原廣介
岡山縣士族　眞佐太
香川縣平民　小津彦三郎
京都府平民　田中忠造
　　內田

府縣醫學校卒業ノ者

島根縣平民　吉岡秀次郎
京都府平民　野井清藏
京都府士族　久富猪一郎
香川縣平民　大平周一
廣島縣平民　檜原彌太郎
京都府平民　田中富藏
岡山縣平民　伊原瀧三郎

外國醫學校卒業ノ者

大阪府士族　緒方銈次郎

限地醫術開業ノ者

靜岡縣平民　八木安藏
岐阜縣平民　林多一
靜岡縣平民　三輪山藏
東京府士族　八木田金次郎
三重縣平民　木平爲次郎
靜岡縣平民　宮城三郎
大阪府平民　日根官太郎
京都府士族　問島信光
岡山縣平民　別府禎三郎
福井縣平民　永谷刀稱
大阪府士族　土生秀藏
愛知縣平民　佐久間幹一
岐阜縣平民　村井爲一
京都府平民　園田豐吉
大阪府平民　松井吉枝
大分縣平民　骨根崎亮一
山形縣平民　齋藤桑庵
德島縣平民　久太郎
岡山縣平民　上田俊吉
宮城縣士族　石原大條
岡山縣士族　龍太郎
愛媛縣士族　蟲明俊三
和歌山縣平民　樋口虎若
島根縣平民　佐野俊一郎
富山縣平民　吉川珠悅
京都府平民　石倉宗嗣
島根縣平民　宮田潤太郎
山口縣平民　河內山鍊吉
廣島縣平民　兒玉政一
香川縣平民　三井惟一
兵庫縣士族　中澤謙三
富山縣平民　石川千太郎
愛知縣平民　藤村桃吉
愛媛縣平民　宮內清
奈良縣平民　井戸千太郎
大阪府平民　日野
高知縣士族　橫矢重長
德島縣平民　石丸宗雄
高知縣士族　間崎辰次郎

第一九六號　第一四號絨
第一九七號　第一五號絨
第一九八號　第一六號絨

一生小倉

但シ各入
切上ケ間

右購買ス望ノ者ハ本關ヘ出頭入札規則契約書案注文明細書等熟覽ノ上本月十日午前十二時限入札スベシ但シ同日午後一時開札ス

此契約締結ハ橫濱稅關長大越成德擔任ス

明治二十八年二月二日

橫濱稅關

日本橋神田麹町區飯田揚修繕工事

右請負望ノ者ハ本月五日ヲ以テ米國アトランタ市ニ於テ開ク國際博覽會ニ出品スベキ日本正式四位ノ

書熟覽ノ上本月十日午後四時ヲ以テ香港印度ニ於テ開ク國際博覽會ニ出品スベキ日本正式四位ノ

明治二十八年二月二日

○今二日「アンモニア」ニ關スル郵便物ハ香港印度ニ向ケ十日午後四時ヲ以テ締切ル

○同八日ニ「アンモニア」ニ關スル郵便物ハ米國ニ向ケ十日午後四時ヲ以テ締切ル

○本月五日ヲ以テ米國アトランタ市ニ於テ開ク國際博覽會ニ出品スベキ日本正式四位ノ

今二日

明後四

本月七

○號外　時一日

○附錄　本日

一鐵道布設用器具　十七點

右購買ス望ノ者ハ本關ヘ出頭入札規則契約書案注文明細書等熟覽ノ上本月十八日正午十二時限入札スベシ但シ同日午後一時開札ス

此契約締結ハ橫濱稅關長大越成德擔任ス

明治二十八年二月二日

○汽車運轉休止

越後地方降雪ノタメ本月三日ヨリ當分ノ內左記ノ二列車運轉ヲ休止ス

明治二十八年二月一日

遞信省鐵道局

下リ　長野發　午前六時二十五分
上リ　直江津發　午前六時二十分

直江津著　午前九時五分
長野著　午前九時十分

○購買入札

明治二十八年二月一日

內務省

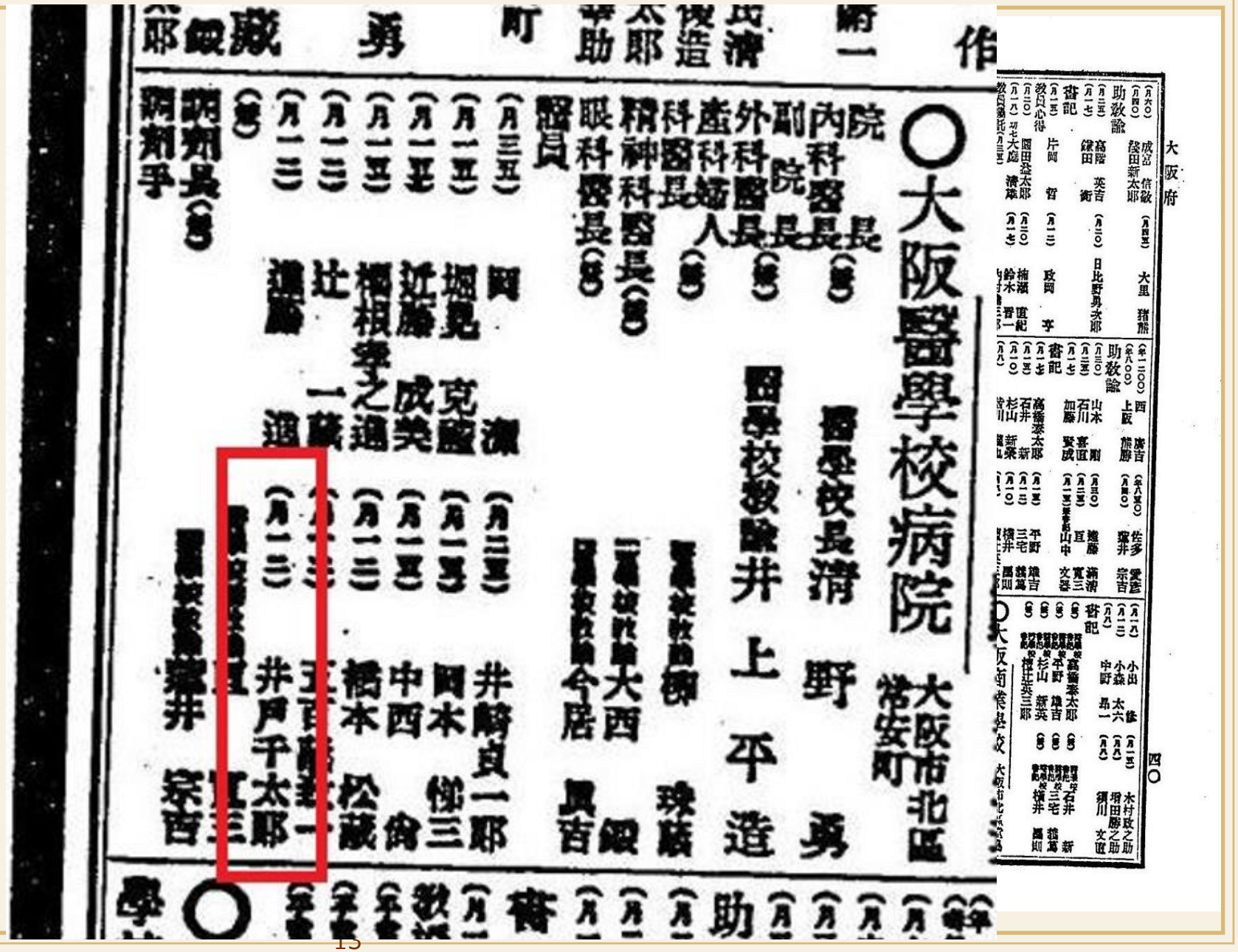
『職員録』内閣官報局

（明治29年11月現在）

大阪府立医学校病院

医員・井戸千太郎、

月給は12円だった。



提供　猪飼祥夫先生

『顕微鏡』

17/18合併号

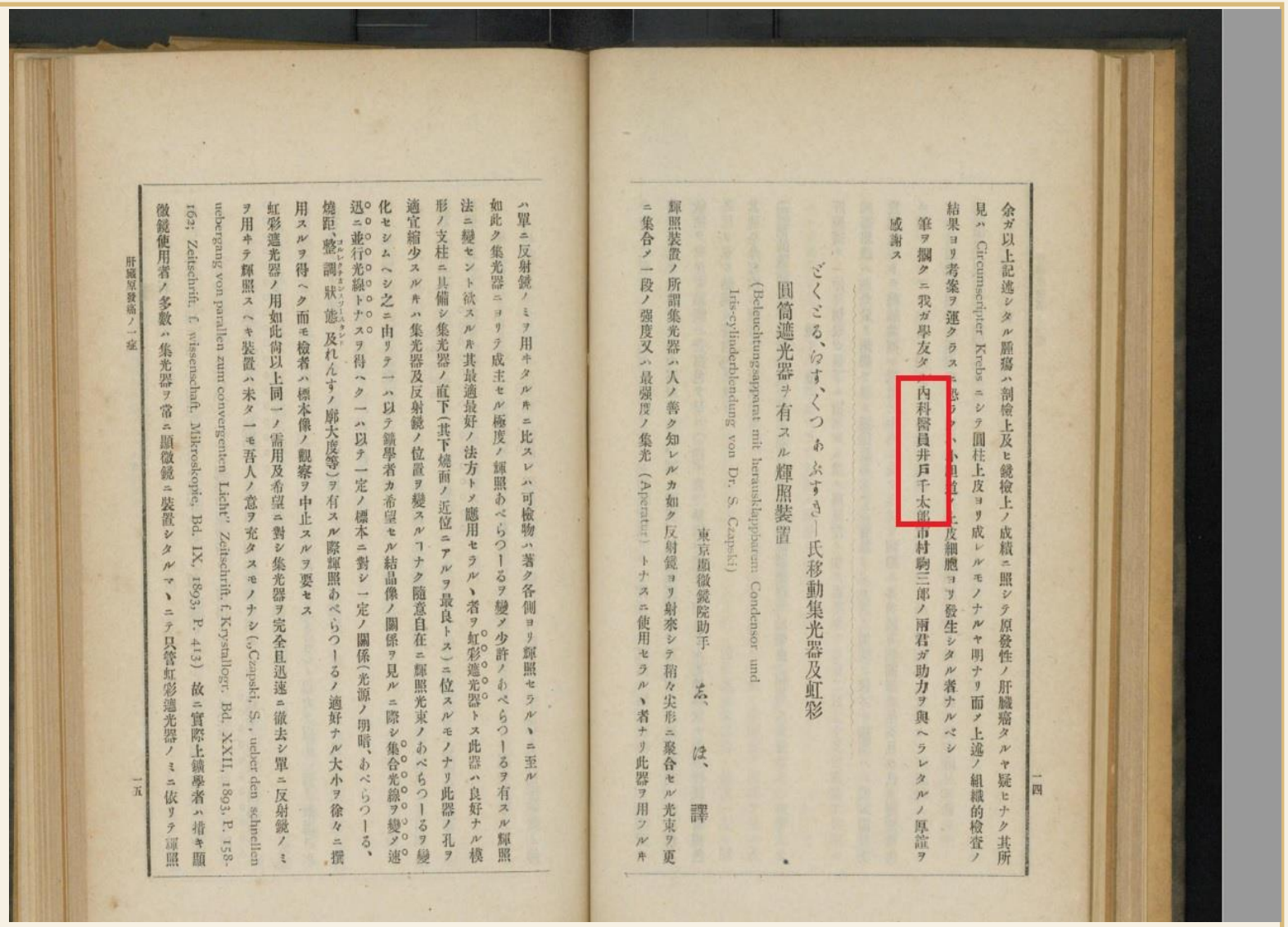
明治30年7月

大阪府立医学校

「肝臓原発癌ノ一症」

田中祐吉論文の手伝い

内科医員井戸千太郎



余ガ以上記述シタル脈瘤ハ剖檢上及ヒ鏡檢上ノ成績ニ照シテ原發性ノ肝臓癌タルヤ疑ヒナク其所見ハ Circumscripter Krebs ニシテ圓柱上皮ヨリ成レルモノナルヤ明ナリ而メ上述ノ組織的檢査ノ結果ヨリ考案ヲ運クラス[illegible]皮細胞ヨリ發生シタル者ナルベシ

筆ヲ擱クニ我ガ學友タ[illegible]内科醫員井戸千太郎市村駒三郎ノ兩君ガ助力ヲ與ヘラレタルノ厚誼ヲ感謝ス

一四

どくとる、ゐす、くつ、ゐ、ふすき―氏移動集光器及虹彩

圓筒遮光器ヲ有スル輝照裝置

(Beleuchtungsapparat mit herausklappbarem Condensor und Iris-cylinderblendung von Dr. S. Czapski)

東京盲微鏡院助手　佐、ほ、譯

輝照裝置ノ所謂集光器ハ人ノ善ク知レルカ如ク反射鏡ヨリ射來シテ稍々尖形ニ聚合セル光束ヲ更ニ集合メ一段ノ强度又ハ最强度ノ集光（Aperatur）トナスニ使用セラルヽ者ナリ此器ヲ用フルキハ單ニ反射鏡ノミヲ用ヰタルキニ比スレハ可檢物ハ著ク各側ヨリ輝照セラルヽニ至ル

如此ク集光器ニヨリテ成主セル極度ノ輝照あべらつーるヲ變メ少許ノあべらつーるヲ有スル輝照法ニ變セント欲スルキ其最適最好ノ法方トメ應用セラルヽ者ヲ虹彩遮光器トス此器ハ良好ナル模形ノ支柱ニ具備シ集光器ノ直下（其下燒面ノ近位ニアルヲ最良トス）ニ位スルモノナリ此器ノ孔ヲ適宜縮少スルキハ集光器及反射鏡ノ位置ヲ變スルコトナク隨意自在ニ輝照光束ノあべらつーるヲ變化セシムヘシ之ニ由リテ一ハ以テ鏡學者カ希望セル結晶像ノ關係ヲ見ルニ際シ集合光線ヲ變メ速迅ニ並行光線トナスヲ得ハク一ハ以テ一定ノ標本ニ對シ一定ノ關係（光源ノ明暗、あべらつーる、燒距、整調（コヒレ、ヲチ、ヒシツ、ヒスタンド）狀態及れんすノ廓大度等）ヲ有スル際輝照あべらつーるノ適好ナル大小ヲ徐々ニ撰用スルヲ得ヘク而モ檢者ハ標本像ノ觀察ヲ中止スルヲ要セス

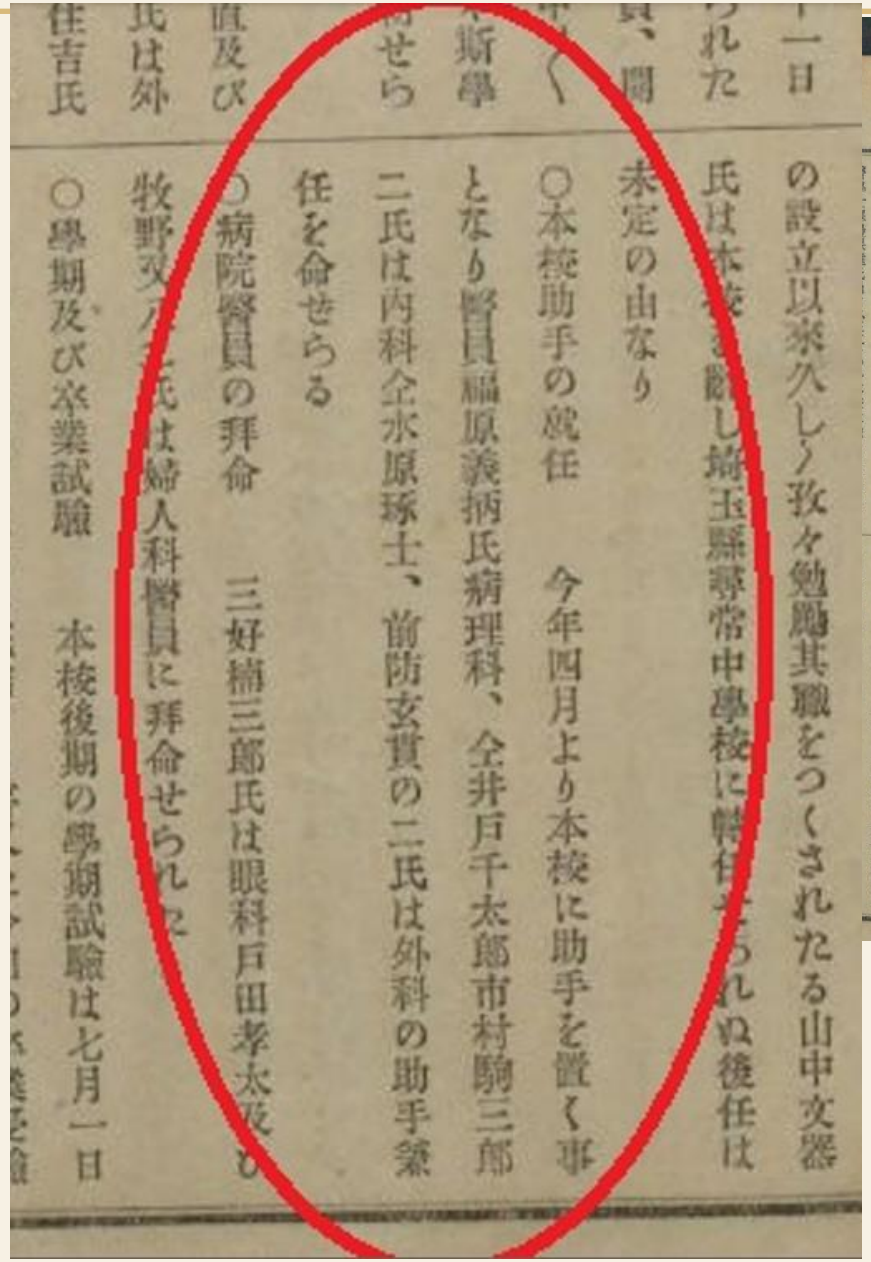
虹彩遮光器ノ用如此尚以上同一ノ需用及希望ニ對シ集光器ヲ完全且迅速ニ徹去シ單ニ反射鏡ノミヲ用ヰテ輝照スヘキ裝置ハ未タ一モ吾人ノ意ヲ充タスモノナシ（v. Czapski, S., ueber den schnellen uebergang von parallen zum convergenten Licht" Zeitschrift. f. Krystallogr. Bd. XXII, 1893, P. 158-162; Zeitschrift. f. wissenschaft. Mikroskopie, Bd. IX, 1893, P. 413）故ニ實際上鏡學者ハ惜キ顕微鏡使用者ノ多數ハ集光器ヲ常ニ顕微鏡ニ裝置シタルマヽニテ只管虹彩遮光器ノミニ依リテ輝照

肝臓原發癌ノ一症　一五

提供　猪飼祥夫先生

大阪府立医学校彙報

明治30年に母校の
内科助手に就任

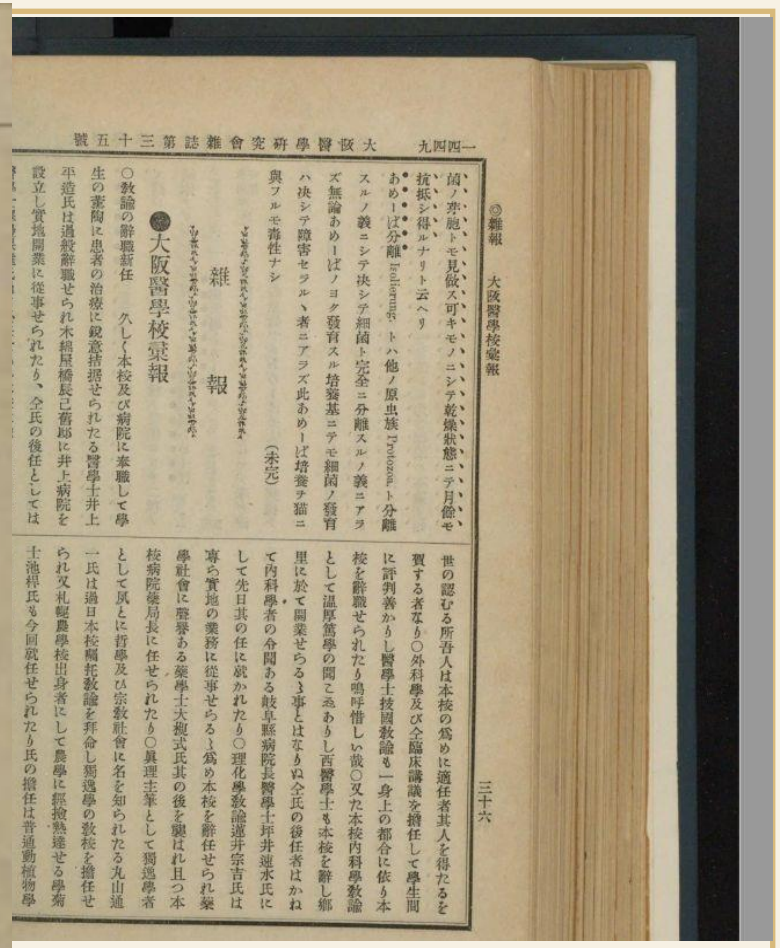


の設立以來久しゝ孜々勉勵其職をつくされたる山中文器氏は本校を辭し埼玉縣尋常中學校に轉任せられ後任は未定の由なり

○本校助手の就任　今年四月より本校に助手を置く事となり醫員福原義柄氏病理科、仝井戸千太郎市村駒三郎二氏は内科仝水原琢士、前防玄貫の二氏は外科の助手兼任を命せらる

○病院醫員の拜命　三好繕三郎氏は眼科戸田孝太及び牧野文[illegible]氏は婦人科醫員に拜命せられと

○學期及び卒業試驗　本校後期の學期試驗は七月一日



大阪醫學研究會雜誌第三十五號　一四九

◎雜報　大阪醫學校彙報　三十六

菌ノ芽胞トモ見做スヿ可キモノニシテ乾燥狀態ニテ月餘モ抗抵シ得ルナリト云ヘリ

あめーば分離 Ballenmus トハ他ノ原虫族 Protozoa ト分離スルノ義ニシテ決シテ細菌ト完全ニ分離スルノ義ニアラズ無論あめーばノヨク發育スル培養基ニテモ細菌ノ發育ハ決シテ障害セラルヽ者ニアラズ此あめーば培養ヲ猫ニ與フルモ毒性ナシ

（未完）

雜報

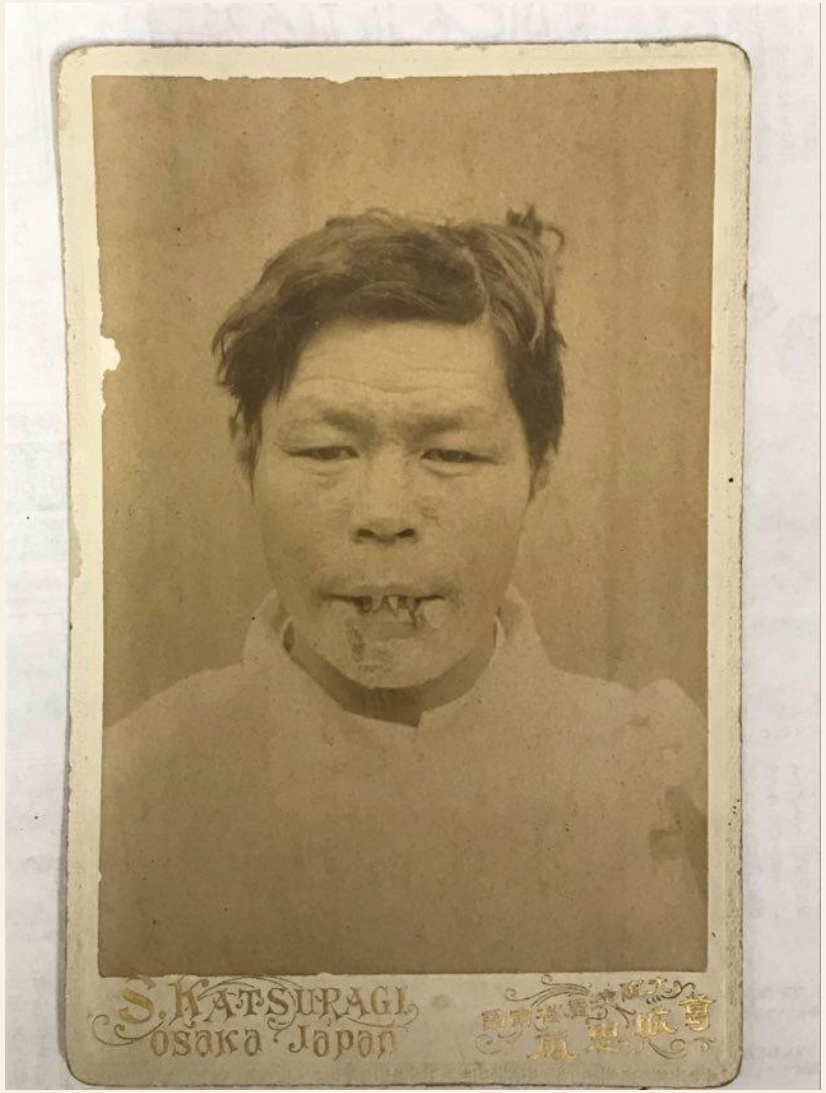
大阪醫學校彙報

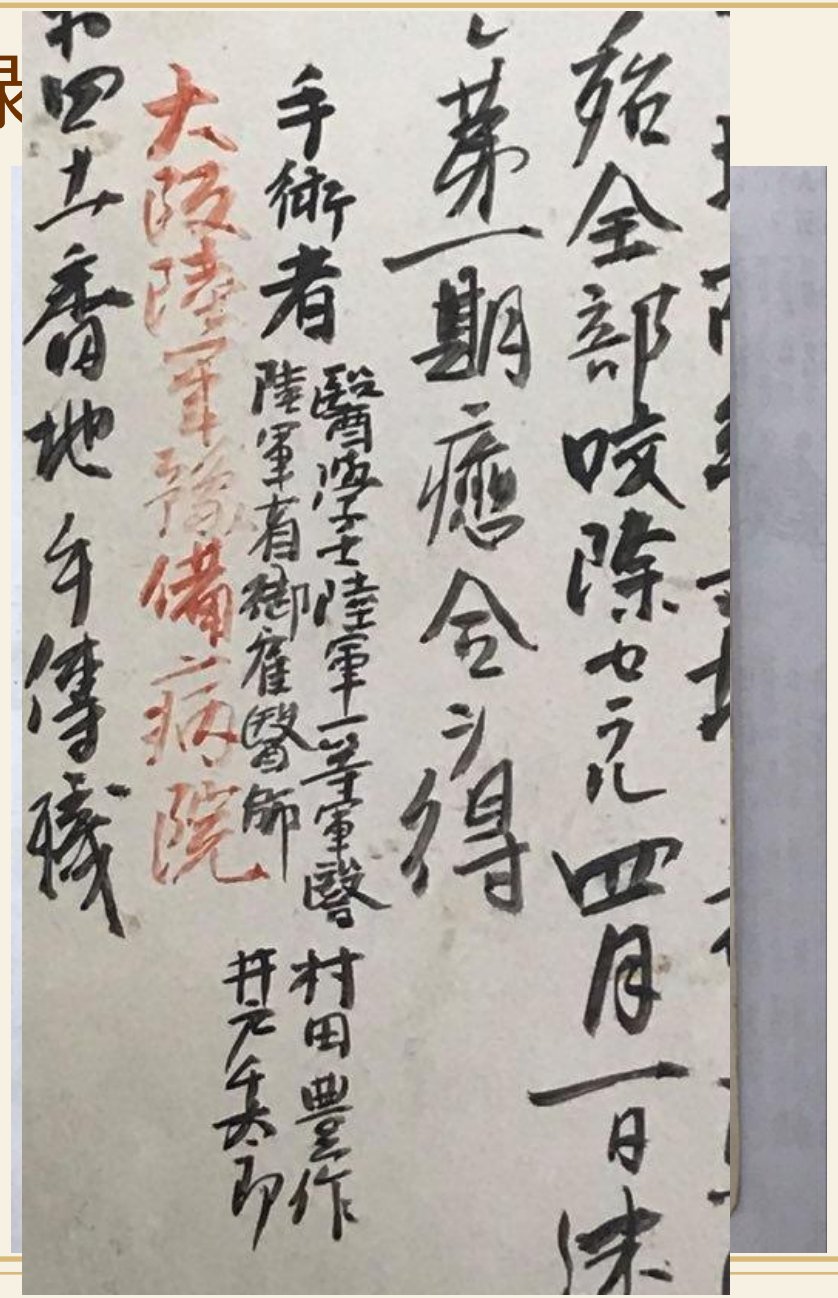
○教論の辭職新任　久しく本校及び病院に奉職して學生の薫陶に患者の治療に鋭意拮据せられたる醫學士井上平造氏は過般辭職せられ木綿屋橋長己舊邸に井上病院を設立し實地開業に從事せられたり、仝氏の後任としては世の認むる所吾人は本校の爲めに適任者其人を得たるを賀する者なり○外科學及び仝臨床講義を擔任して學生間に評判善かりし醫學士技國教論も一身上の都合に依り本校を辭職せられたり嗚呼惜しい哉○又た本校内科學教論として温厚篤學の聞こゑありし西醫學士も本校を辭し郷里に於て開業せらるゝ事とはなりぬ仝氏の後任者はかねて内科學者の令聞ある岐阜縣病院長醫學士坪井連水氏にして先日其の任に就かれたり○理化學教論連井宗吉氏は專ら實地の業務に從事せらるゝ爲め本校を辭任せられ藥學社會に聲譽ある藥學士大槻式氏其の後を襲ぎれ且つ本校病院藥局長に任せられたり○眞理主筆として獨逸學者として夙とに哲學及び宗教社會に名を知られたる丸山通一氏は過日本校嘱托教論を拜命し獨逸學の教校を擔任せられ又札幌農學校出身者にして農學に經驗熟達せる學士池桿氏も今回就任せられたり氏の擔任は普通動植物學

提供　猪飼祥夫先生

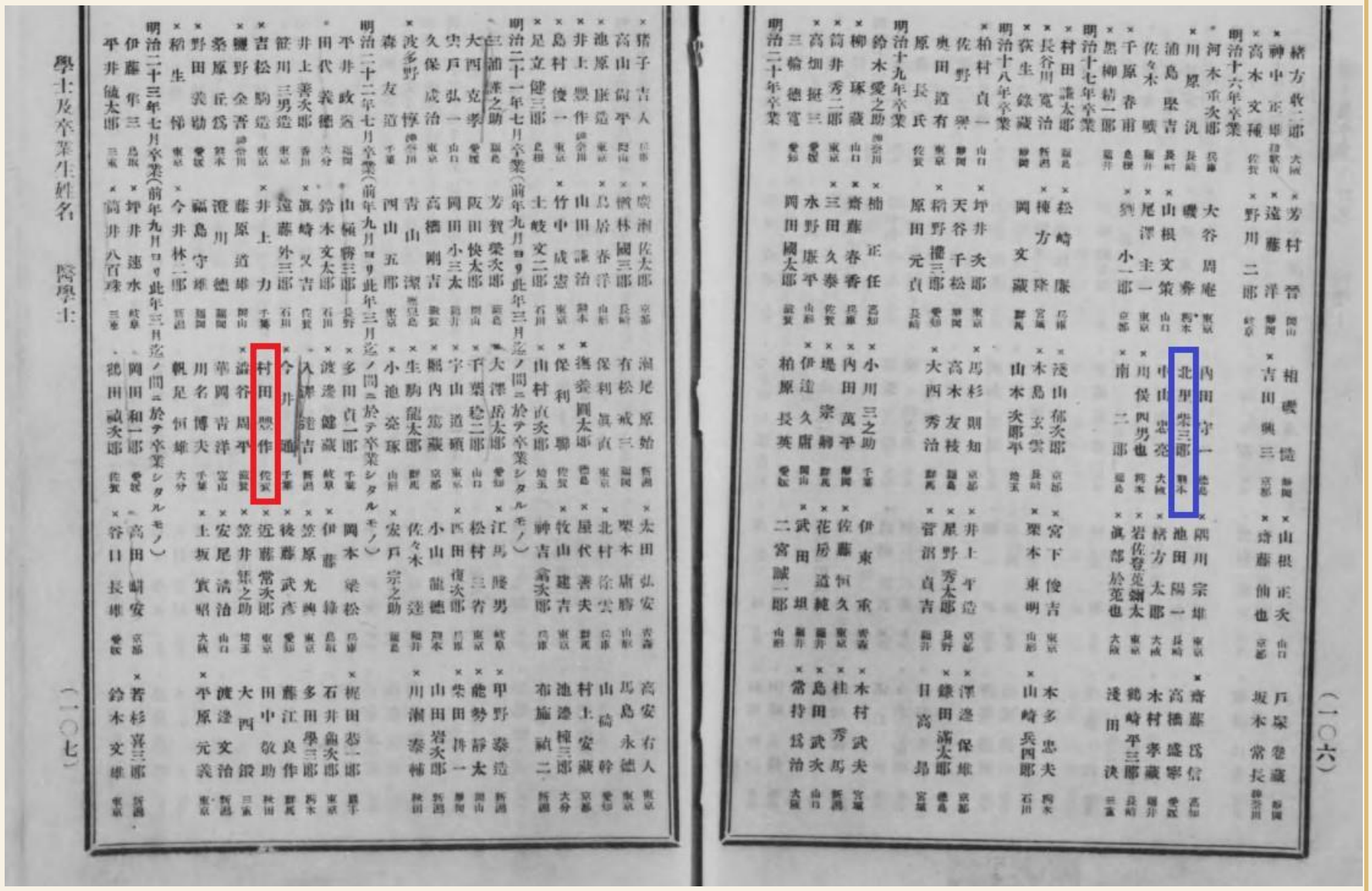
フッターを追加

明治29年3月14日　手術記録





村田豊作　明治21年　東京帝国大学　別課卒業



明治二十年卒業

三輪德寛　愛知　水野康平　山形　伊達久庸　岡山　武田坦　福井　武田國太郎　滋賀　柏原長英　愛知　二宮誠一郎　山形

明治二十一年七月卒業（前年九月ヨリ此年三月迄ノ間ニ於テ卒業シタルモノ）

三浦達之助　福島　大西克孝　愛媛　阪田快太郎　岡山　千葉稔二郎　山口　岡田小三太　鹿児島　宇山道碩　東京　匹田復次郎　兵庫　柴田井一　静岡　山田岩次郎　新潟　川瀬泰輔　秋田　村田豊作　佐賀　今井通　千葉　後藤武彦　愛知　藤江良作　群馬　田中敬助　秋田　大西鍛　三重　渡邊文治　新潟　安尾清治　山口　笠井隼之助　埼玉　近藤常次郎　東京　井上力　千葉　藤原道雄　福岡　澄川德　福岡　川名博夫　千葉　土坂寅昭　大阪　平原元義　東京　今井林二郎　新潟　今井恒雄　大分　稲生悌　東京　野田義勘　愛媛　福島守雄　福岡　桐足　長崎　笠原丘爲　群馬　澄川吉洋　富山　安尾清治　山口　渡邊文治　新潟　川名博夫　千葉　土坂寅昭　大阪　平原元義　東京　今井林二郎　新潟　今井恒雄　大分　稲生悌　東京　野田義勘　愛媛　福島守雄　福岡　桐足　長崎　笠井八百珠　三重　鈴田禎次郎　佐賀　谷口長雄　愛媛　鈴木文雄　東京

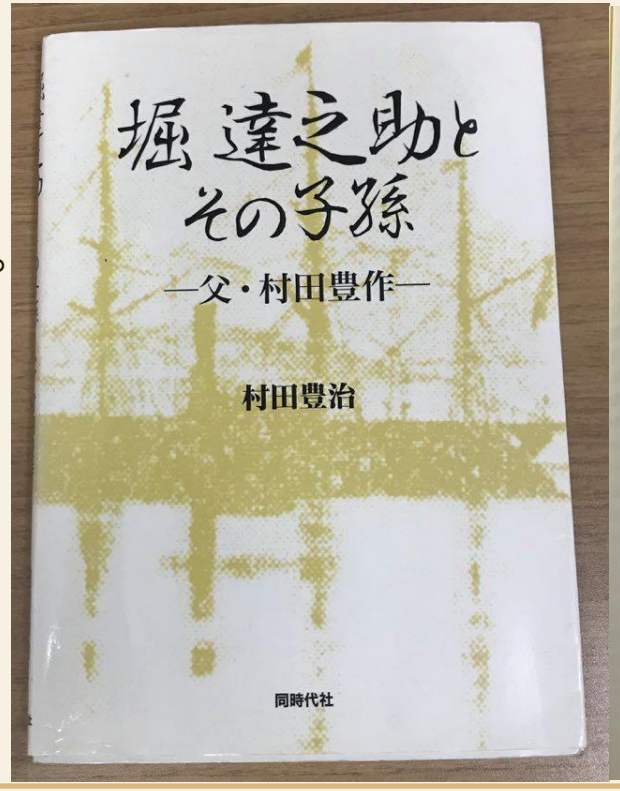
明治二十三年七月卒業（前年九月ヨリ此年三月迄ノ間ニ於テ卒業シタルモノ）

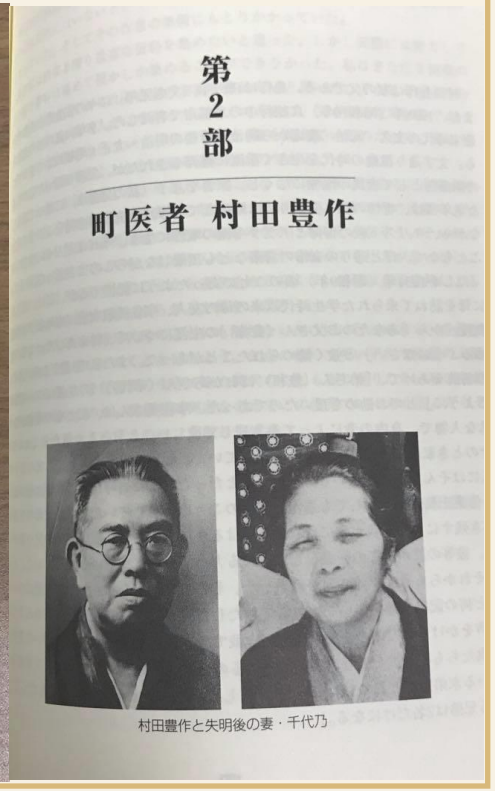
伊藤隼三　鳥取　坪井速水　岐阜　岡田和一郎　愛媛　高田嶋安　京都　若杉喜三郎　新潟　平井儀太郎　三重　鈴田禎次郎　佐賀　谷口長雄　愛媛　鈴木文雄　東京

村田豊作　明治21年　東京帝国大学　別課卒業

1884年（明治17年） 23歳、東京帝国大学医学部に進学。
陸軍の依託学生として在学（卒業後陸軍軍医に任官することが義務づけられた）。
1888年（明治21年） 27歳、東京医学会にて「陸軍兵士の脚気について」という研究を発表し、
脚気には麦飯が予防効果があると主張した（中外医学新報第205号）。
　同年12月、東京帝国大学医学部を卒業（医学士）。この頃、堀辰之助の孫と結婚。
　同時に陸軍見習軍医に任ぜられ、さらに陸軍軍医学校において6か月間の研修を受けた。

1889年（明治22年） 陸軍三等軍医（少尉相当）
　大阪第四師団附を拝命。
1892年（明治25年）31歳、大阪府立医学校の教授を兼任。
1895年（明治28年） 34歳、4～12月、日清戦争に従軍出征。
1900年（明治33年） 39歳、市立鹿児島病院々長就任。
1916年（大正 5年） 55歳、鹿児島市東千石町に
　村田内科医院を開業。
1935年（昭和10年）74歳、旅先の京都にて客死。





大正14年の医籍録

医籍7985号
野村医院開業、明治30年12月と記載
波多野村　村医、小学校校医

結婚

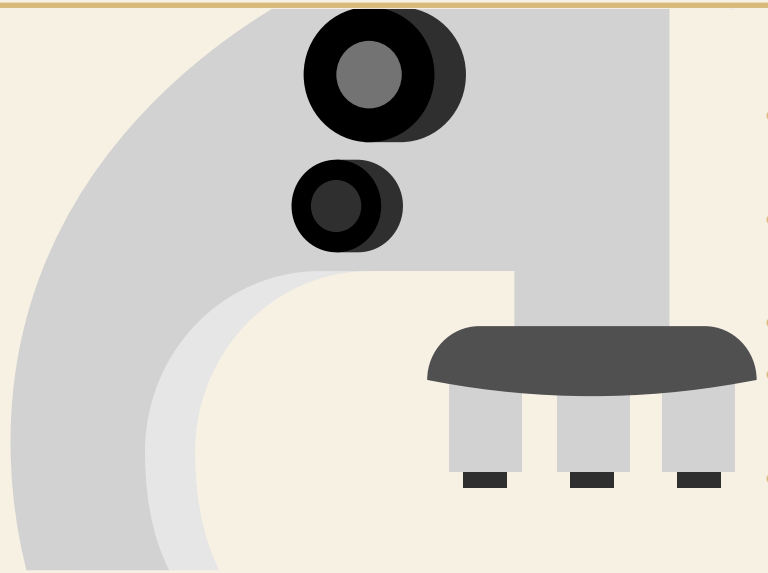
戸籍によると、
明治31年7月12日
野村佐治郎（安政元年生まれ）の
娘・タツエ（明治13年生まれ）と婚姻。

野村千太郎　波多野村大西
内外科　野村醫院　明治二年一月廿三日生
明治廿七年府立大阪醫學校卒業醫七九八
五號　卒後第四師團陸軍豫備病院勤務大
阪聯隊徴兵檢査員母校附屬病院醫員勤務
同世年十二月現地開業　波多野村々醫小
學校々醫　趣味圖畫書畫

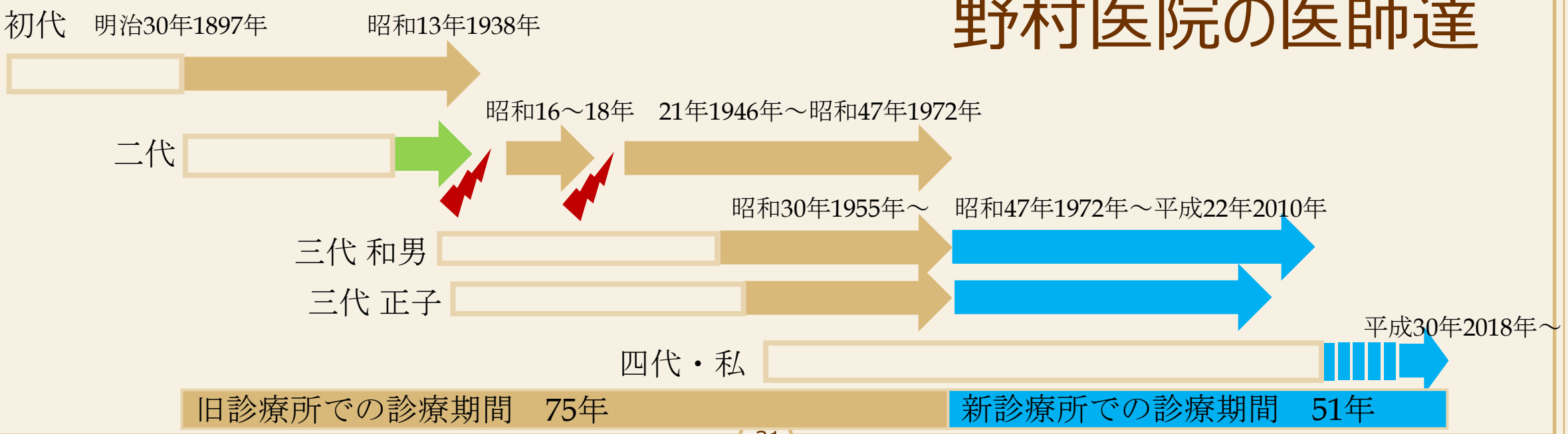
提供　猪飼祥夫先生

テキストを追加

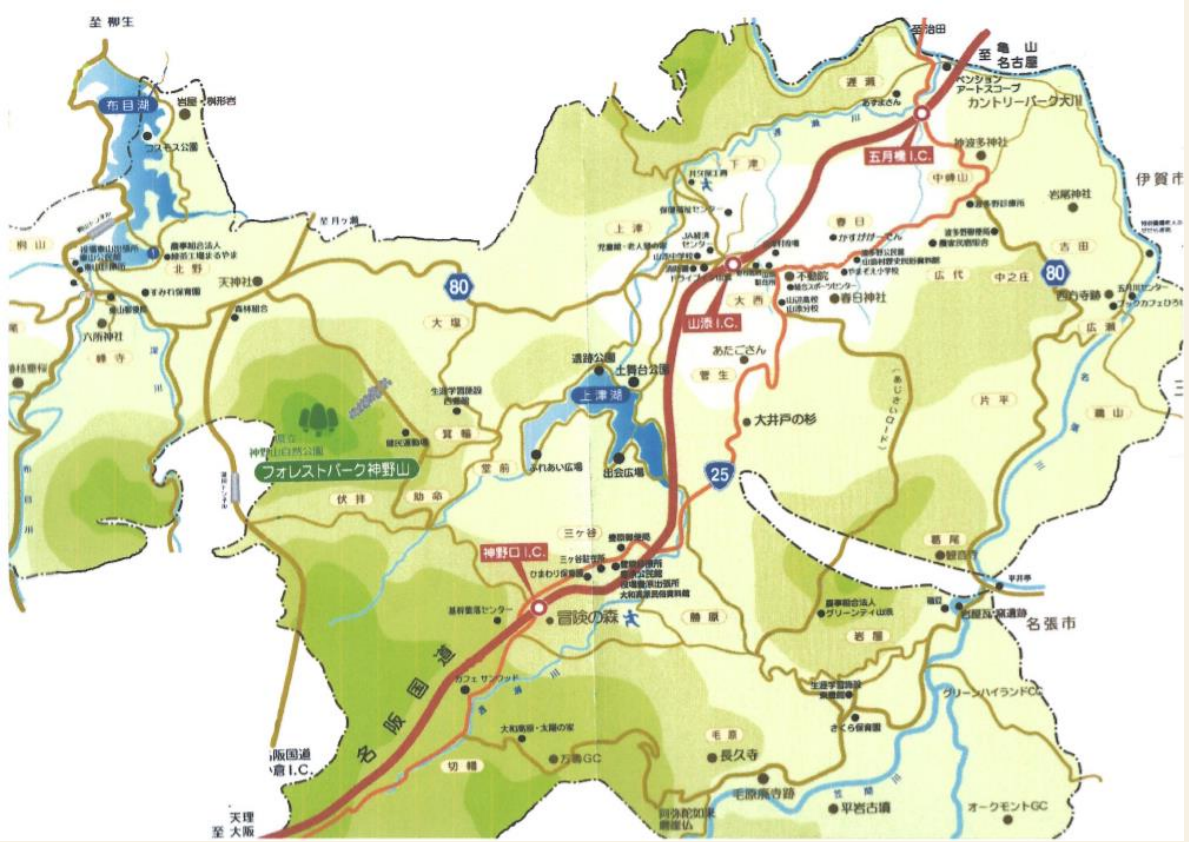
野村医院の医師達



- 初代院長　野村千太郎（明治2年1869年～昭和13年1938年）
- 二代　野村 清　（明治３0年1897年～昭和47年1972年）
- 三代　野村和男　（昭和2年1927年～平成22年2010年）
- 　正子　（昭和3年1928年～平成15年2003年）
- 四代　野村信介　（昭和32年1957年～　）

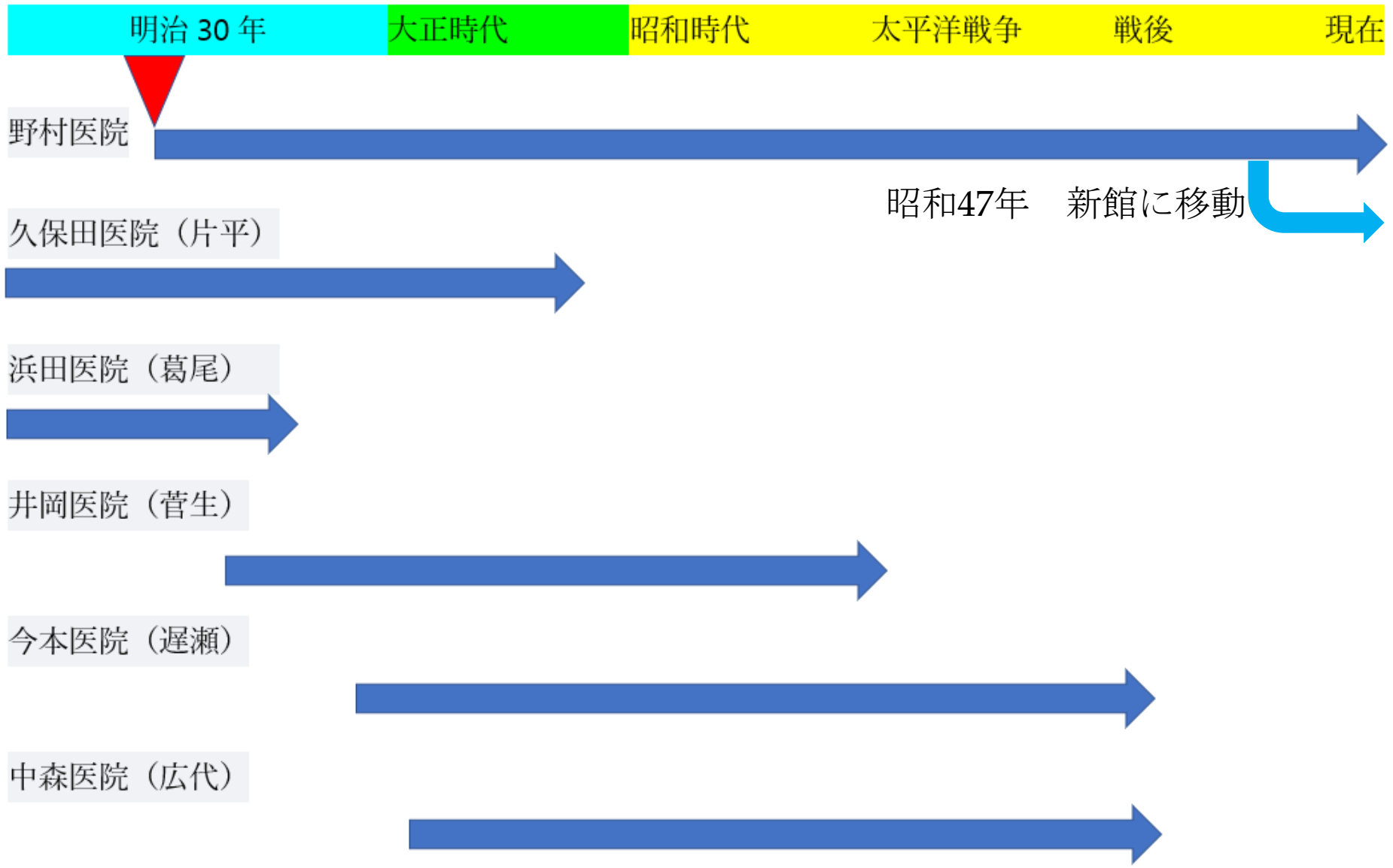


奈良県山辺郡山添村
昭和31年　波多野村が
他の二村と合併して誕生



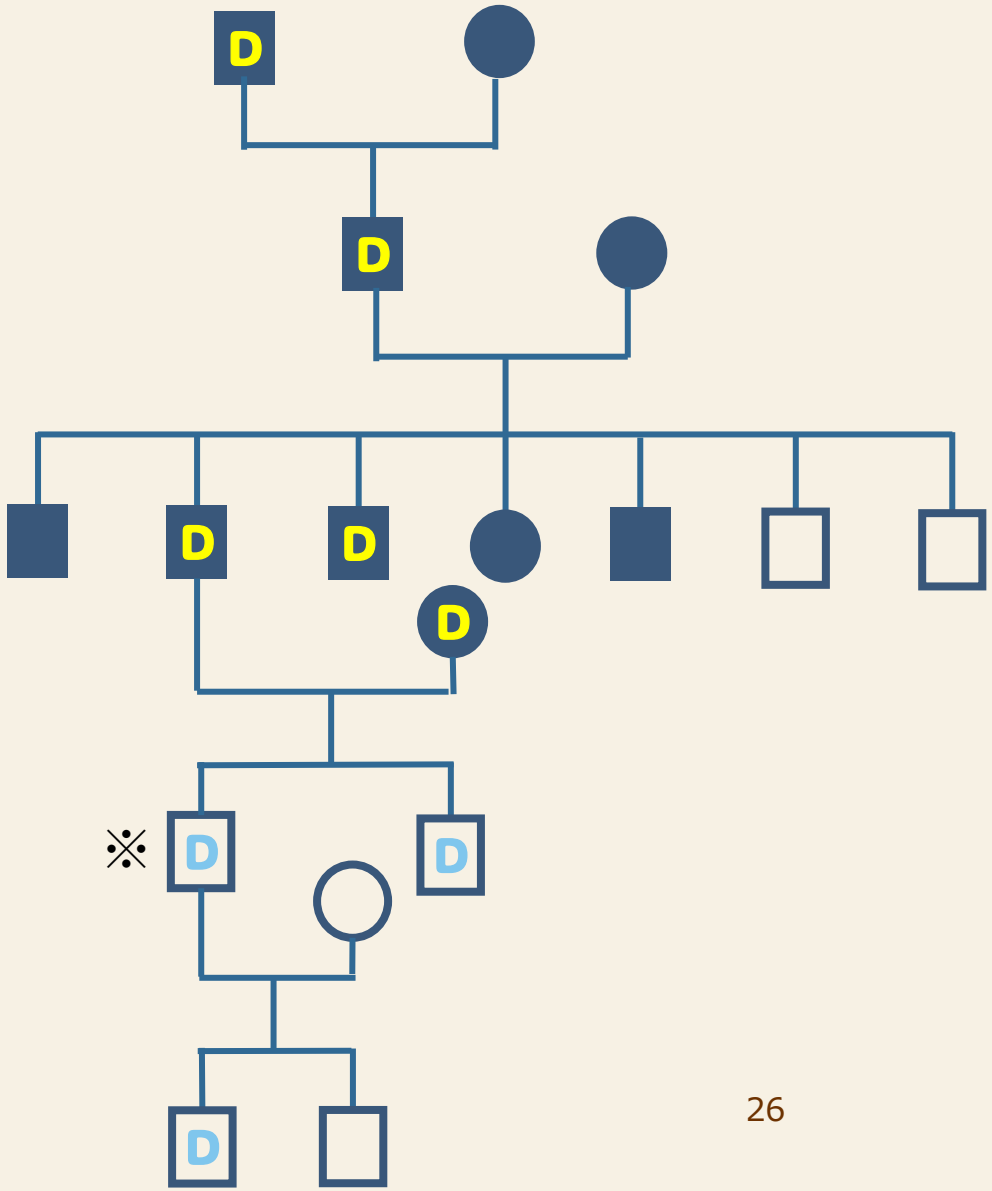
加

旧・波多野村
⑤今本医院
⑥中森医院
③野村医院
④井岡医院
①久保田医院
②浜田医院
奈良市立 布目こども園
奈良市立月ヶ瀬小中
月ヶ瀬尾山
月ヶ瀬桃香野
丹生町
大字相山
大字北野
大字西波多
野村医院オールドクリニック
波多野郵便局
五月橋
五月橋IC
治田IC
予野保育園
古山郵便局
アリジカントリークラブ
山添村神野山自然公園
山添村
大字伏拝
奈良大学野球場
大字三ケ谷
神野口IC
大字勝原
山添村生涯学習施設 東豊館
大字切幡
大字毛原
上深川町
荻町
針ケ別所郵便局
小倉IC
小倉町
針町
名張市立梅が丘小
名張市立名張中学校第二グラウンド
名張シティホテル
HOTEL AZ
なばり自動車学校
名張市立薦原小
桔梗が丘
近畿大学
Google


明治 30 年
大正時代
昭和時代
太平洋戦争
戦後
現在
野村医院
昭和47年　新館に移動
久保田医院（片平）
浜田医院（葛尾）
井岡医院（菅生）
今本医院（遅瀬）
中森医院（広代）

波多野村史から

野村家系図



昭和47年新診療所完成

波多野村から山添村に。
昭和40年、名阪国道開通。

300m離れた国道沿いに移動。
住居も移動。
二代院長の逝去とほぼ同時。
三代院長の性格。
旧診療所にあった多くの医療器具などは、
そのままになった。

野村医院オールドクリニックに遺されているもの

①初代　大阪府立医学校学生時代のノートや教科書、医学書

②初代　大阪府立医学校病院や第四師団予備病院勤務時代の医療記録

③初代　野村医院開業後に、使用した医療器具や薬品

④二代　大阪北区で開業した際に用いたもの

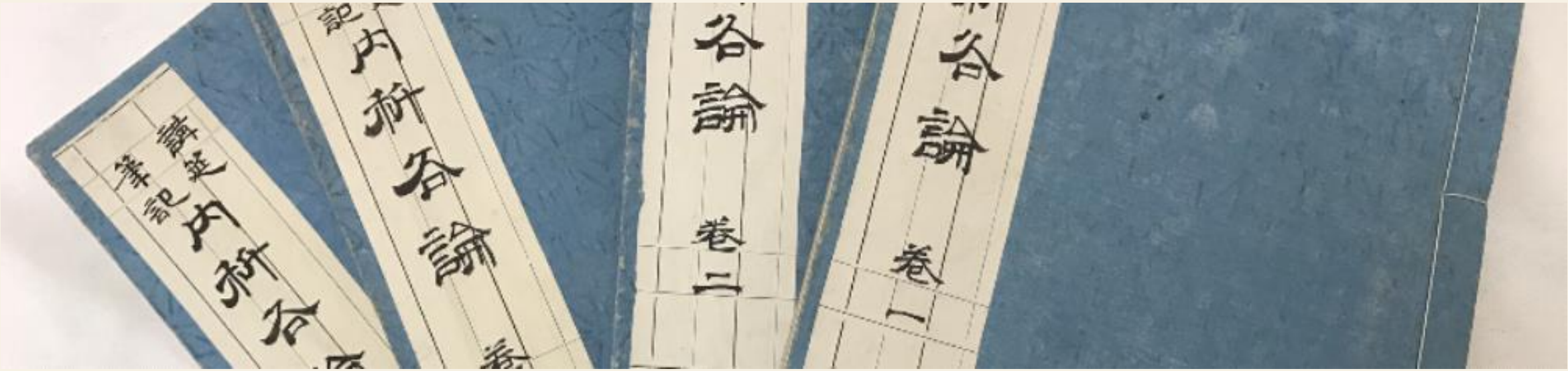
⑤二代　二度の出征（昭和13年～昭和21年）に関連したもの

⑥二代～三代　戦後から新診療所開設までの医療器具

⑦診療所の建物そのものと、生活に関連する物品

⑧三代　正子の短歌

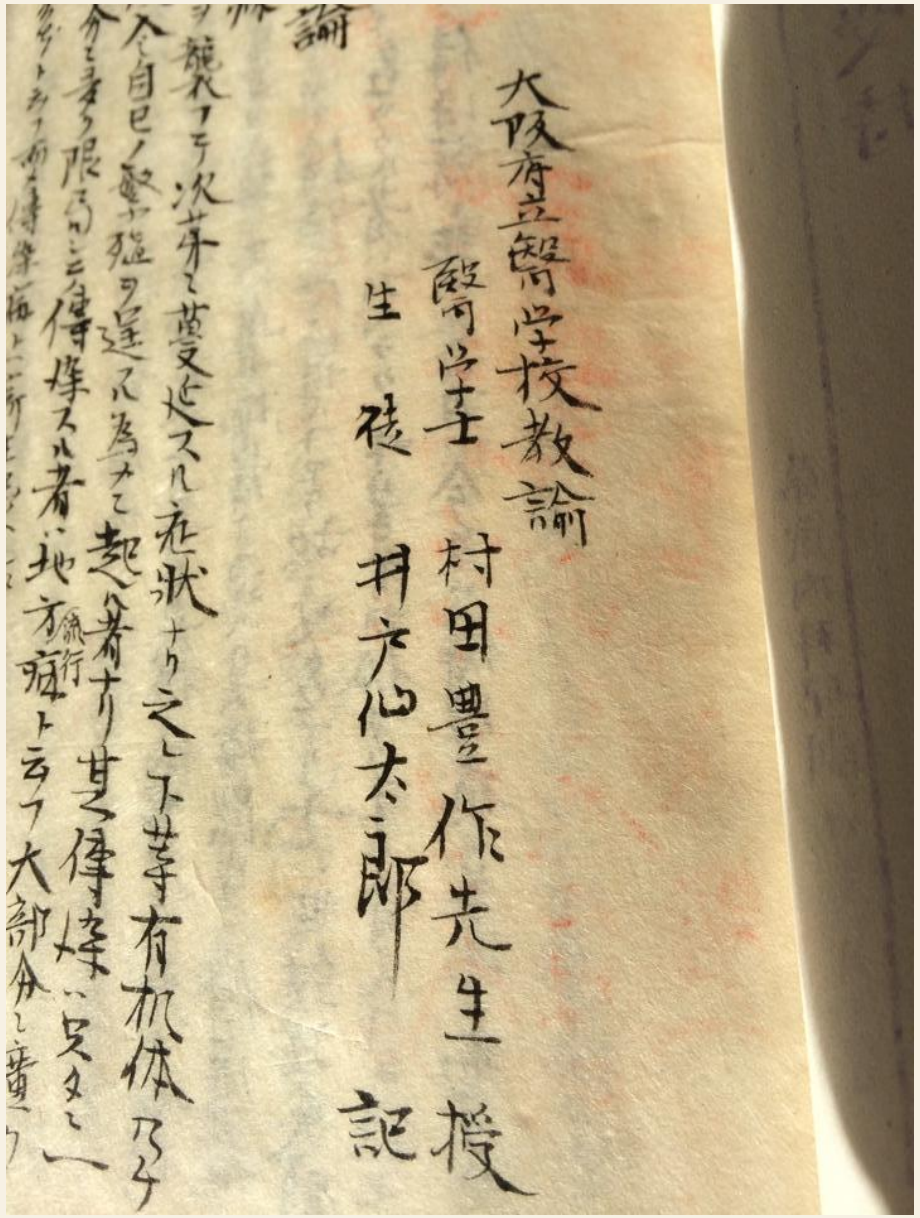
⑨　ふろく



遺されているもの①

初代　千太郎の学生時代のノートや教科書

- （おそらく）すべての講義ノートが保存。
  基礎医学（解剖学、生理学、
  病理学、薬理学）
  本草学も
  臨床医学

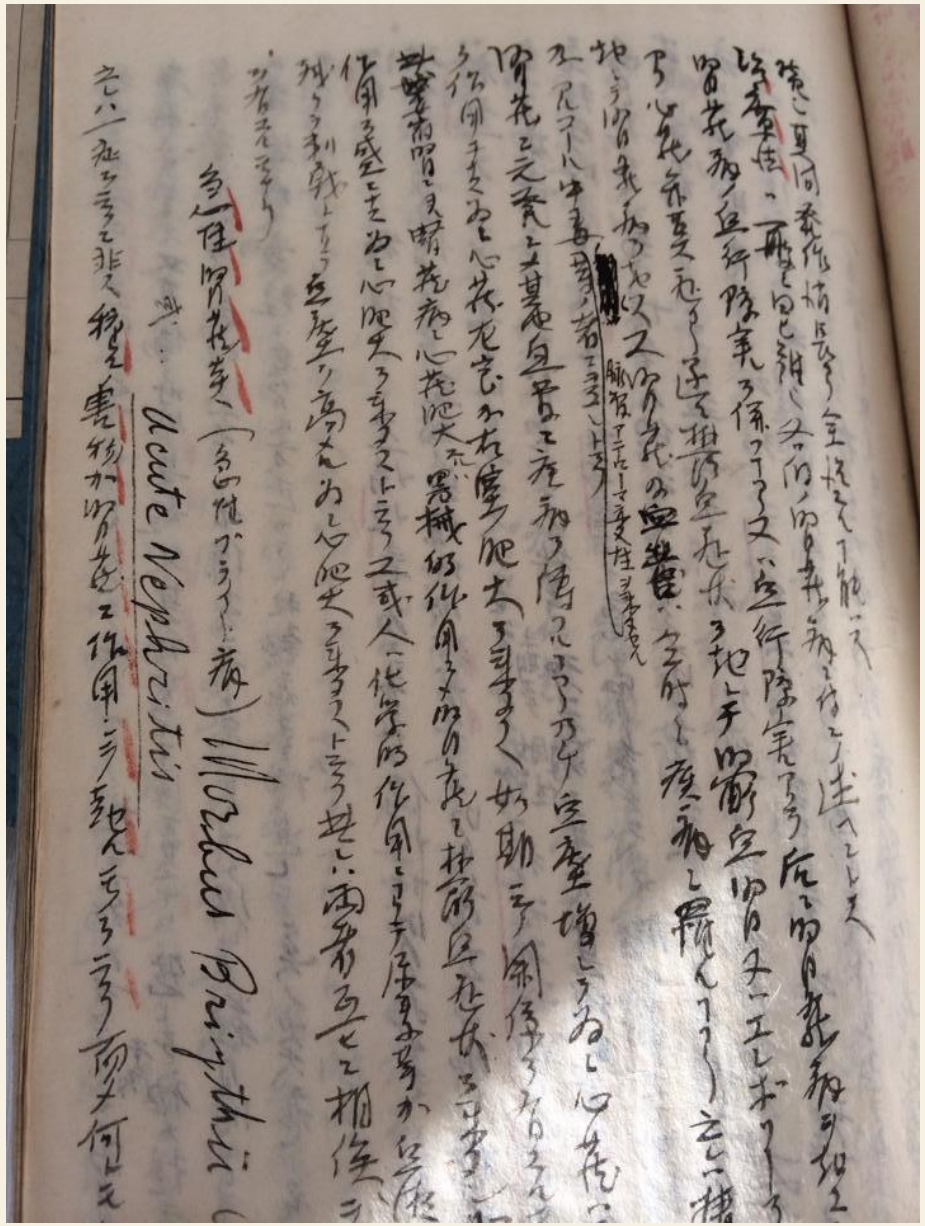


大阪府立醫學校教諭

醫學士　村田豐作先生　授

生徒　井戸仙太郎　記

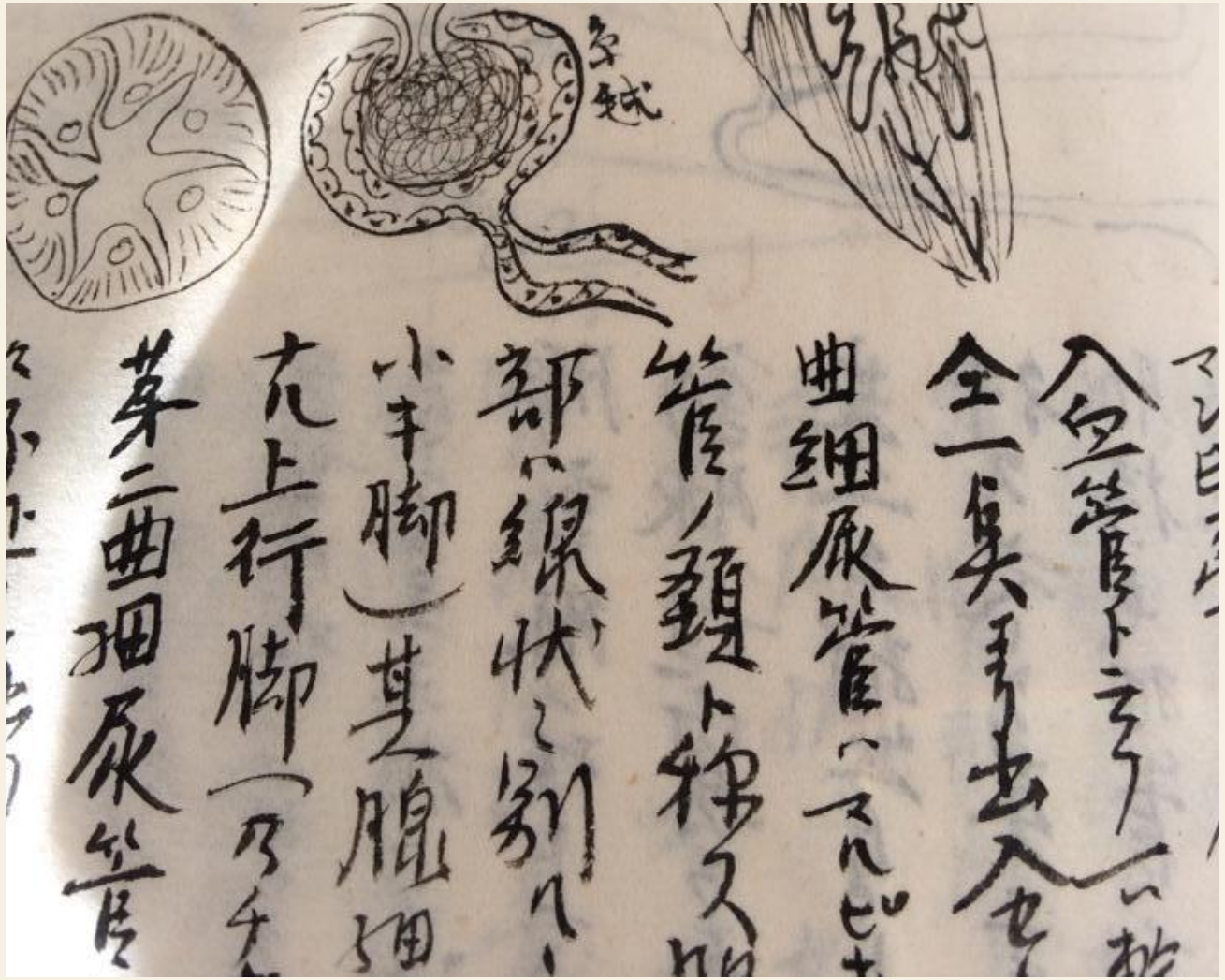
論



フッターを追加

明治20年代の医学用語

糸毬	糸球体
細尿管	尿細管



遺されているもの②

初代　千太郎の大阪府立医学校病院や
第四師団予備病院勤務時代の医療記録

- **特徴的な臨床像を写真にて記録したもの**
  （鶏卵写真）
  手術所見など

遺されているもの③

初代　千太郎が、
開業後に使用した医療器具や薬品

- 注射器、顕微鏡
- 種痘の道具
- 血圧計
- 電気治療器
- 　　など

Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. E, **28**, pp. 13–20, December 22, 2005

明治時代の電気治療器に関する基礎的研究

前島正裕

国立科学博物館理工学研究部　〒169–0073　東京都新宿区百人町3–23–1

Basic Study on the Faradization Apparatuses in Meiji Era

Masahiro Maejima

Department of Science and Engineering, National Science Museum, Tokyo
3–23–1 Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo 169–0073, Japan

Abstract　The faradization apparatuses in Meiji Era played an important part for the history of electrification in Japan. However there are few data about machines, makers of them, amount of productions and etc. Investigating circuits, structures, dimensions of these machines and unique characters, this research offers some basic data about three machines of battery type and about two Magneto-Electric Machines that were preserved in the Edo-Tokyo Museum, the Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology and the National Science Museum. Three battery machines were made by each makers individually in Japan but their structures were very similar. Two Magneto-Electric Machines made by foreign makers were in the same situation too.

Key words:　faradization apparatus, Magneto-Electric Machine, science and technology, pre-modern Japan

1. はじめに

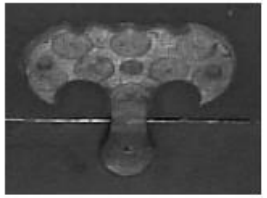
トヨタの産業技術記念館が所蔵するトヨタコレクションと江戸東京博物館が所蔵する赤木コレクションは，江戸時代から明治時代にかけて製作された器物や文書からなる資料群で，それぞれ526点と3,661点からなる．これらは我が国の科学技術黎明期の資料として位置づけることができる．この両コレクションには，明治時代の初め頃に使われたと想定される電気治療器が数台含まれている．以前より江戸時代の電気治療器については，平賀源内や佐久間象山縁の品として，また江戸時代の蘭学あるいは科学の導入過程を示す重要な機器として，多数の研究がなされている．一方，明治時代の電気治療器については，ほとんどの器械に名板が無く製造者がわからないこと，電気治療や電気治療器に関する文書が少ないことなどから，布施光男の研究などを除いて，あまり関心を持たれることが無かった．しかし我国における電気治療器の歴史は，インターナルな電気技術史の視点からのみでなく，科学技術のパブリックアクセプタンスを考える上で貴重な知見を提供すると考えられる．そこで明治時代の電気治療器の実態を把握する一助とするため，本研究ではトヨタ・赤木両コレクションに収蔵されている4台の電気治療器と，国立科学博物館所蔵の1台，合計5台を調査し電気治療器の基礎データを収集した．

2. 江戸時代の電気治療器

我が国で最初に製作された電気の機械は，平賀源内の手による「えれきてる」と呼ばれる電気治療器であった．これは，摩擦により静電気を起こす装置である．図1に「えれきてる」の構造を示す．

欧米では，摩擦起電機の発明からしばらくして，Halle の Christian G. Kratzenstein (1723–1795) などが電気と人体の生理の関係について研究を始めた[1]．1700年代中頃には，摩擦起電気を使った実験ショーが盛んに行われるようになった．Dr.

表1.　電池式電気治療器

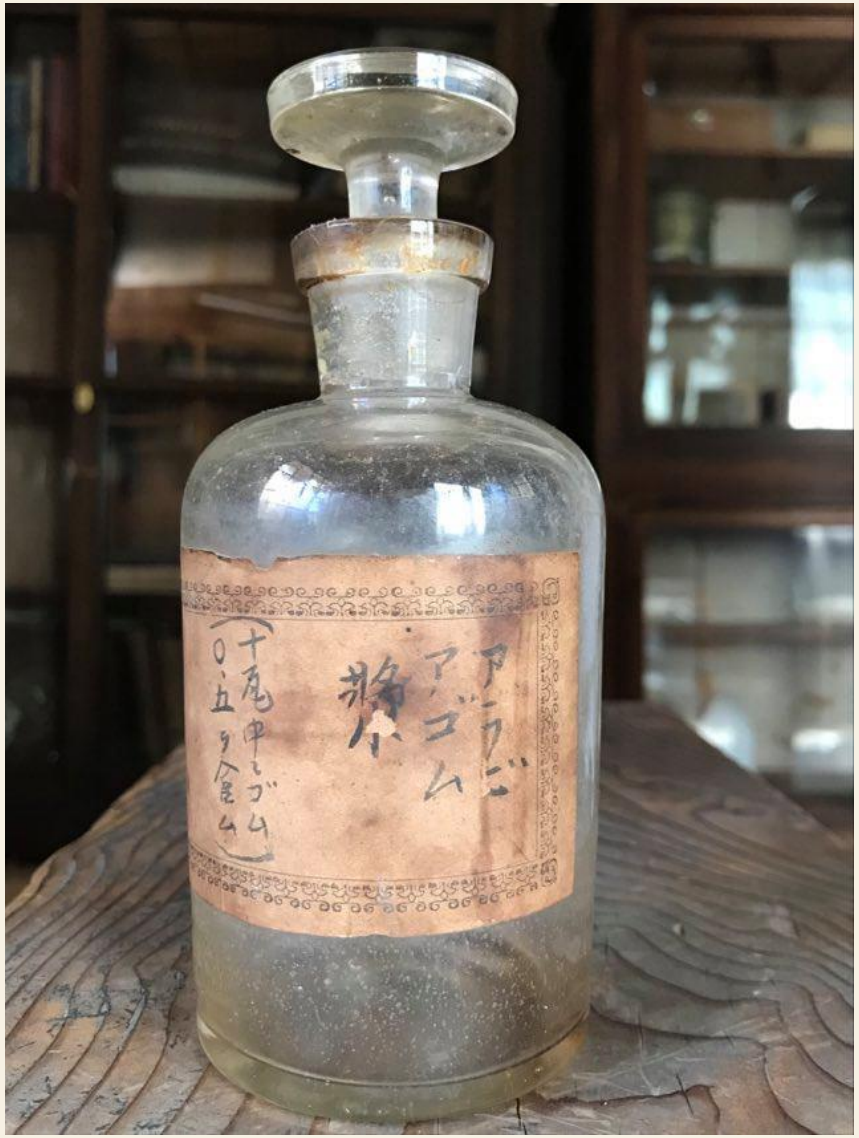
外　観			
資料名*	ダニエル式エレキテル	乾電電気（エレキテル）	感傳電気
所蔵機関	江戸東京博物館	産業技術記念館	国立科学博物館
製造年	明治初期	明治期	明治期
製造者・国	日本	日本	不明
外寸 [mm] 縦・横・高	147 × 212 × 197	165 × 235 × 200	150 × 208 × 175
付属品	導子他9点	導子他	導子他9点
ラベル等	なし		なし
止め金具			
取手形状			なし

*各資料名は，所蔵先の資料名によった．

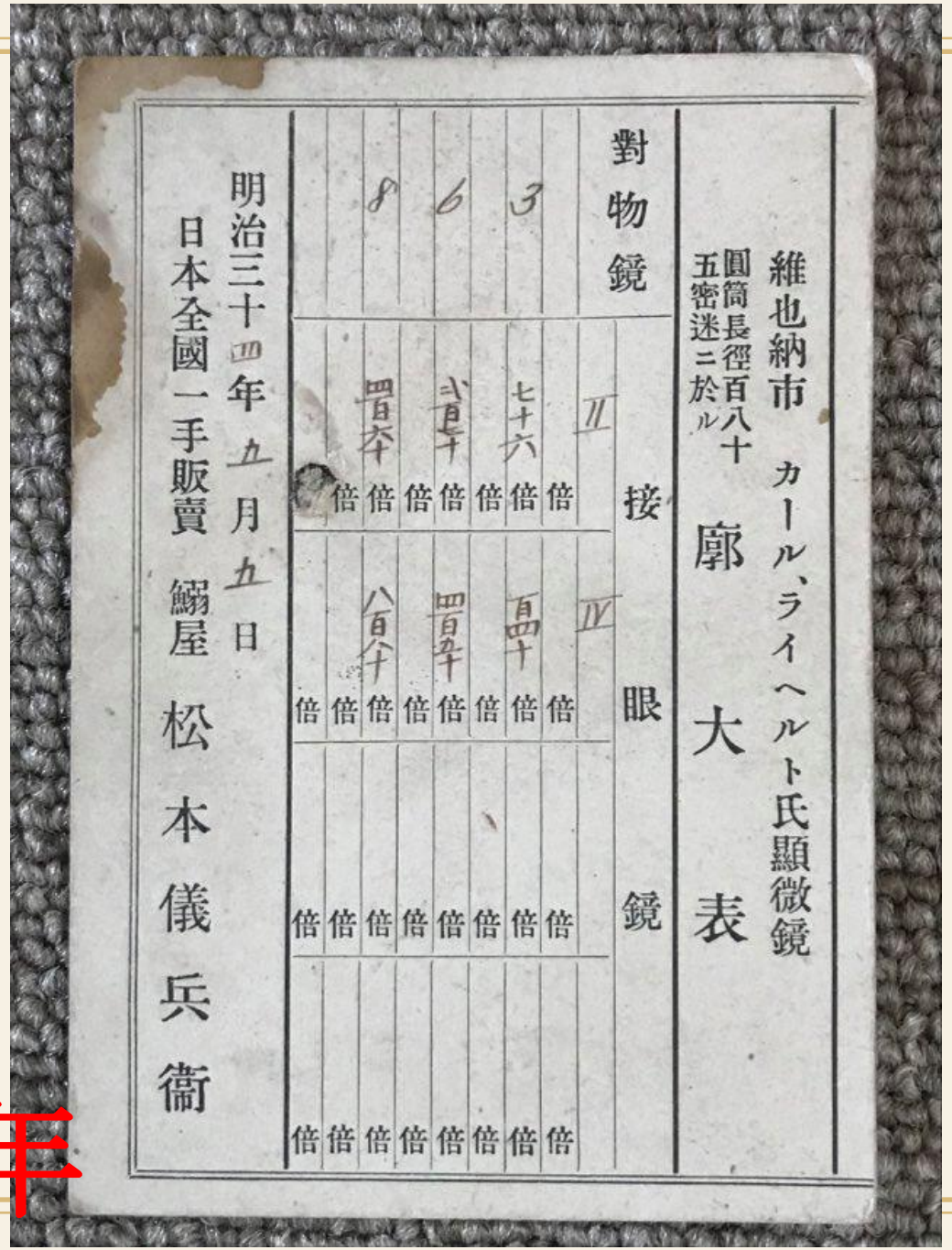
HLORÄTH
Dr SPEIER
& von KARGER
MADE IN GERMANY
劇
50 CC
スパイエル氏
クロルエチル
REGISTERED TRADE MARK
三共株式會社

子供の頃の記憶：抜歯された歯がぎっしり詰まったガラス瓶が、いくつも床下に置かれていた。

OLEUM CACAO.
脂オカカ
Oleum Cacao
½ pond


アラビアゴム
漿
十瓦中ニゴム
〇.五ヲ含ム

68円　明治34年



維也納市　カール、ライヘルト氏顯微鏡

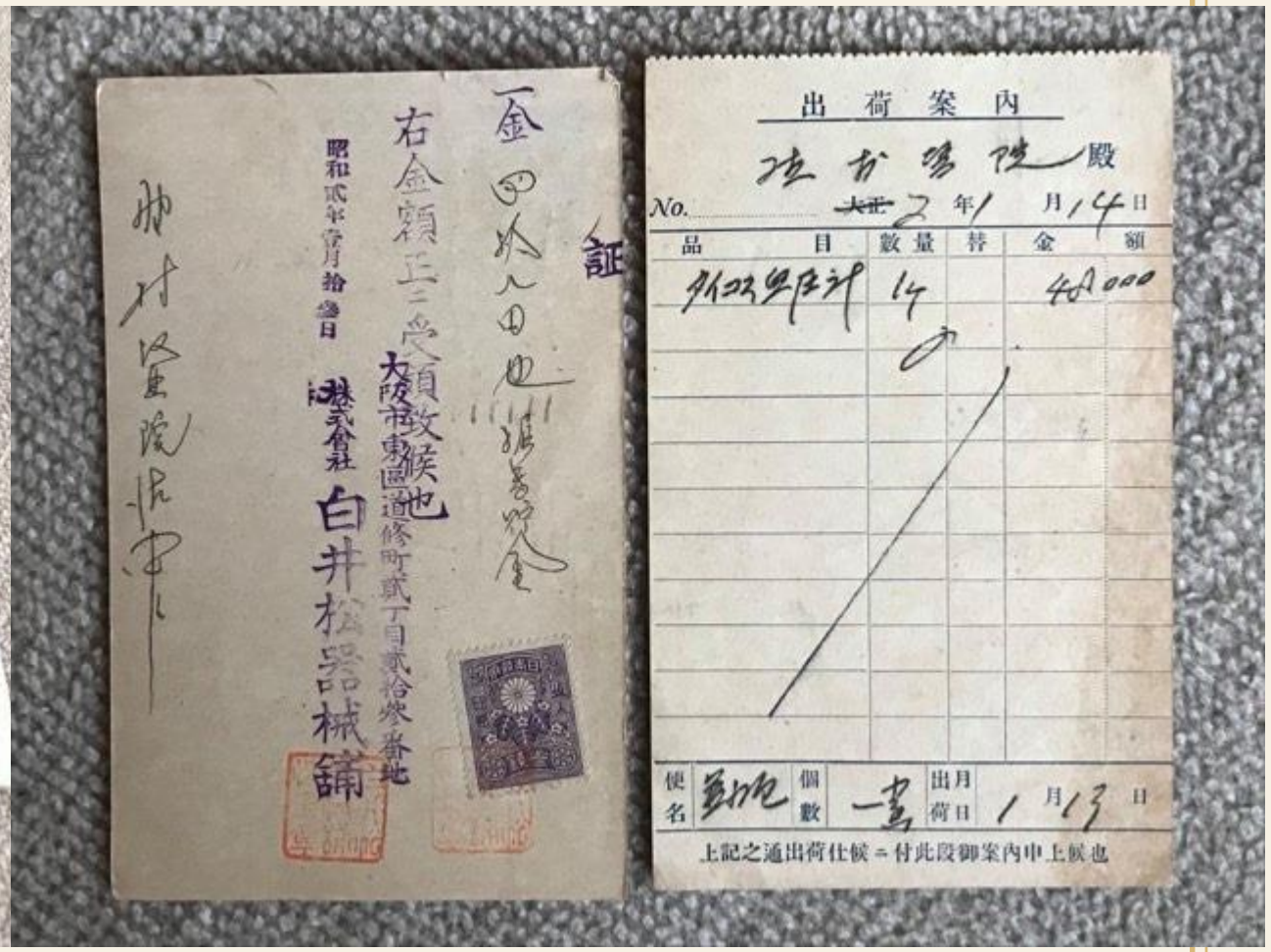
圓筒長徑百八十五密迷ニ於ル

廓大表

對物鏡	接眼鏡 II	接眼鏡 IV
3	七十六倍	百五十倍
6	三百十倍	四百六十倍
8	四百六十倍	八百六十倍

明治三十四年五月五日

日本全國一手販賣　鰯屋　松本儀兵衛



金四拾八円也

右金額正ニ受領致候也

昭和弐年壱月拾壱日

大阪市東區道修町弐丁目弐拾壱番地

株式會社 白井松器械舗

出荷案内

殿

No. 大正 2 年 1 月 14 日

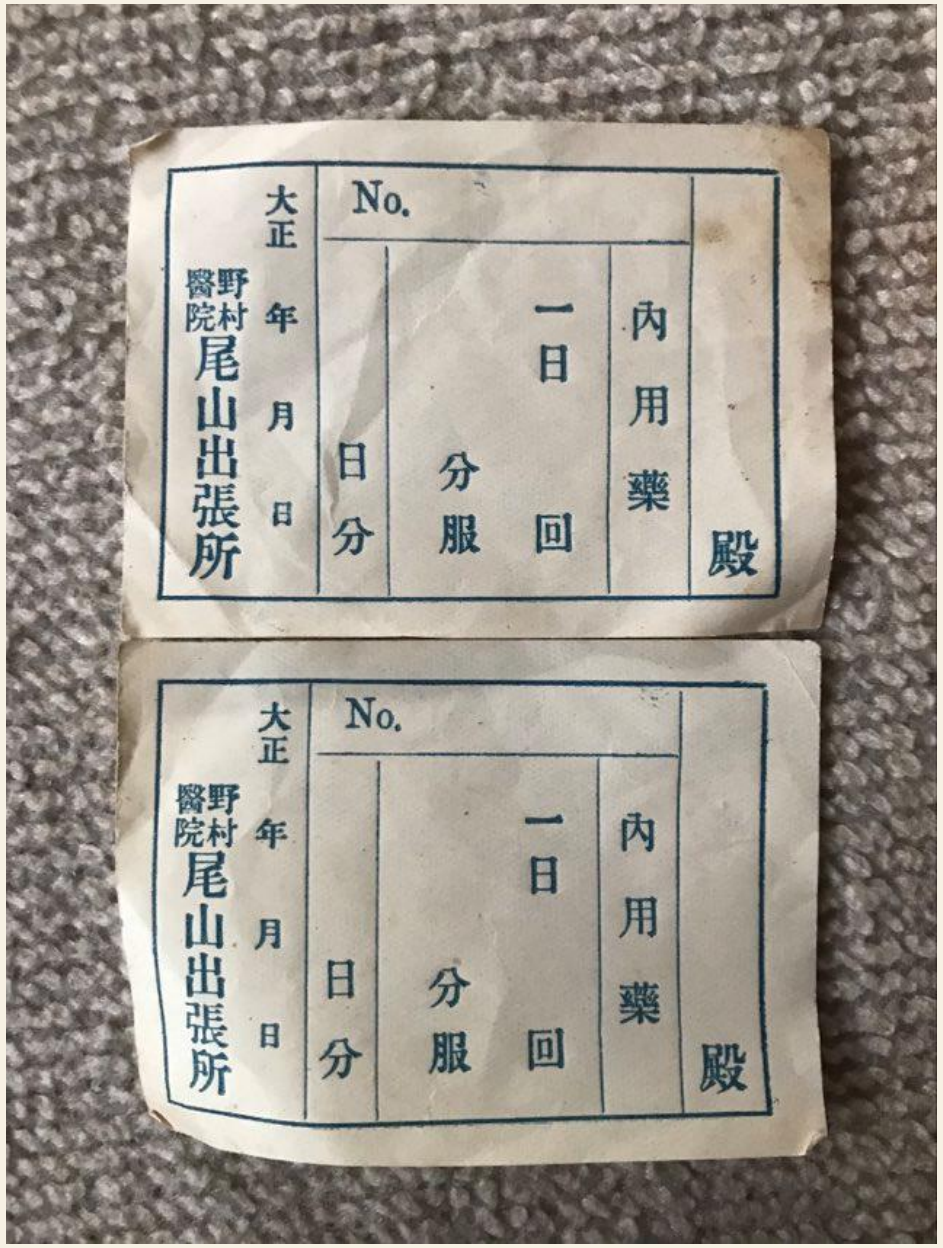
品目	數量	替	金額
	14		48.000

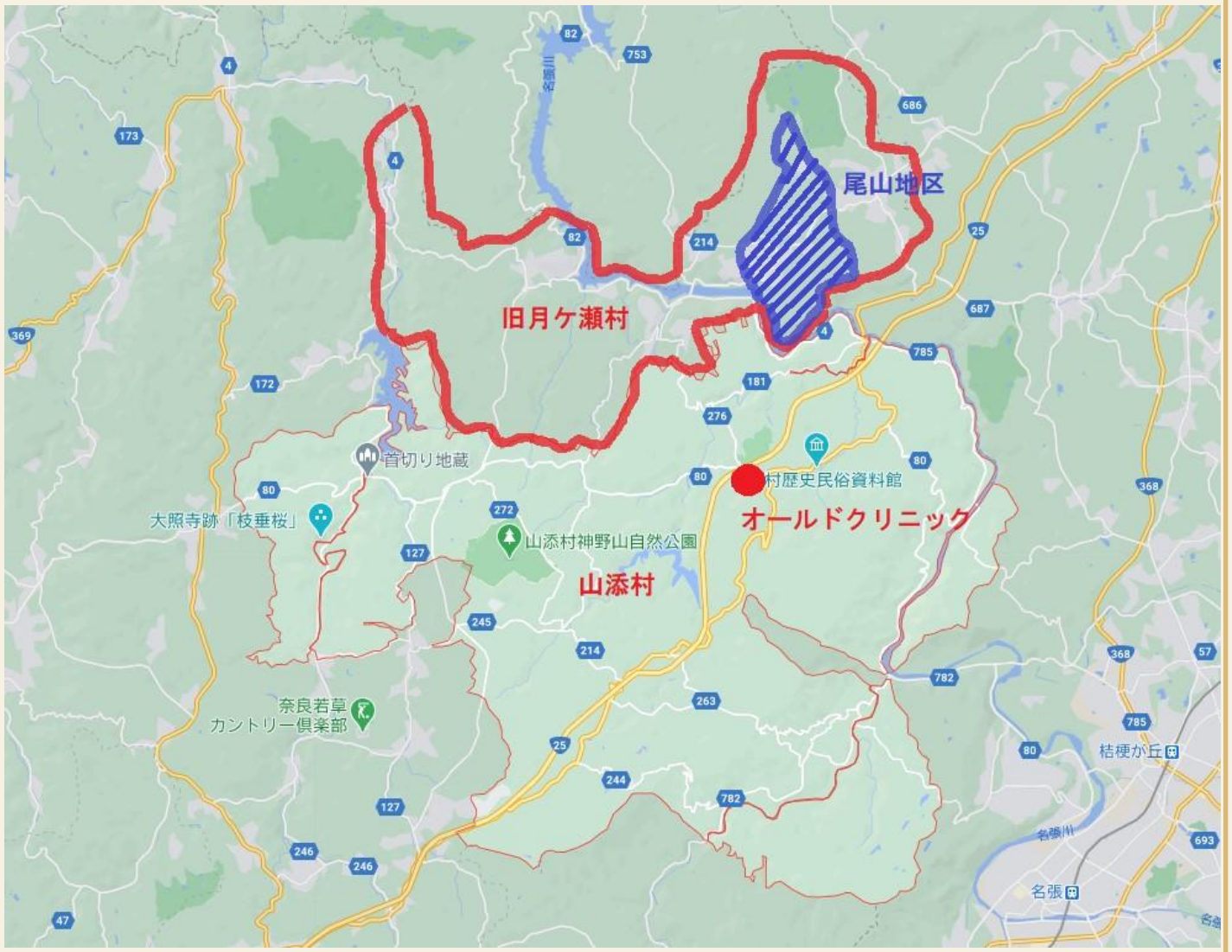
使名 個數 一重 出荷日 1 月 13 日

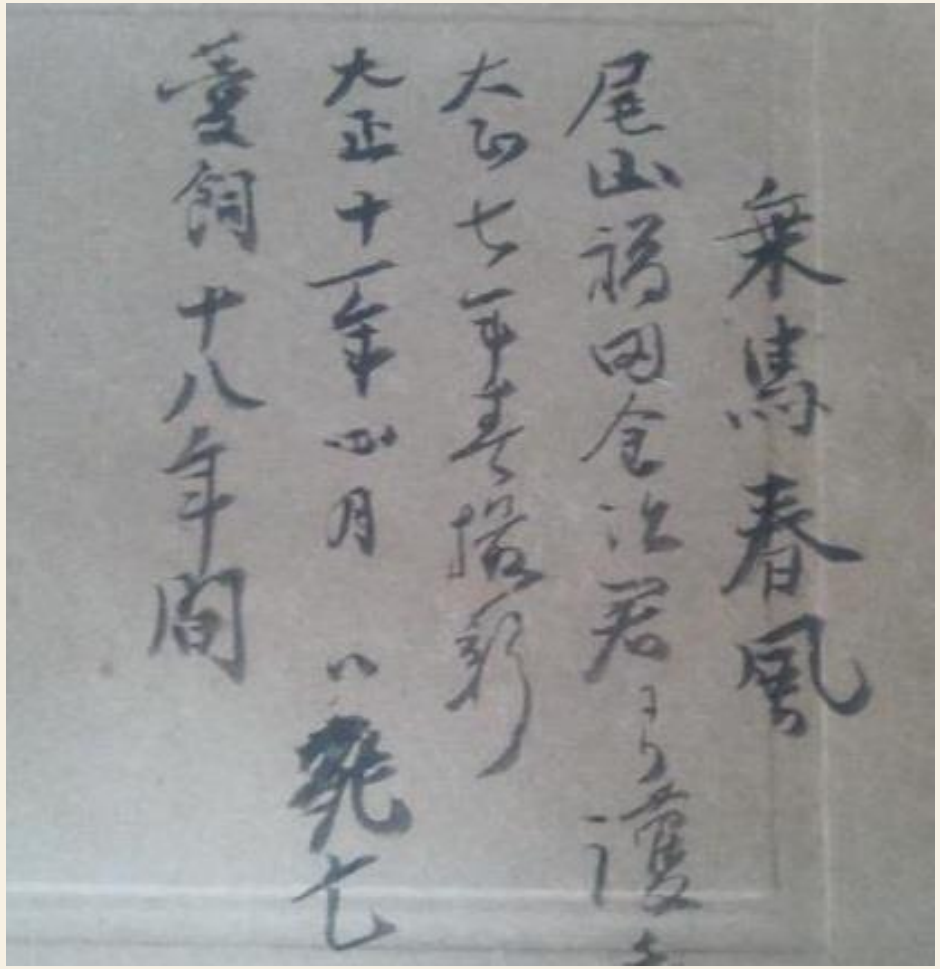
上記之通出荷仕候ニ付此段御案内申上候也

昭和
野村醫院封緘證
昭和
野村醫院封緘證
昭和
野村醫院封緘證

大正 年月日
野村醫院
No.
外用藥
殿
外用藥
用法
殿
昭和 年月日
大西野村醫院
藥用外
用法
殿
昭和 年月日
野村醫院
內用藥
殿
內用藥
殿
大西野村醫院
點眼藥
殿
點眼藥
S.E.D
用法一日
回點眼
殿
月


大正 年 月 日
No.
一日 回
分服
日分
内用薬
殿
野村醫院
尾山出張所
大正 年 月 日
No.
一日 回
分服
日分
内用薬
殿
野村醫院
尾山出張所


尾山地区
旧月ケ瀬村
オールドクリニック
山添村
首切り地蔵
村歴史民俗資料館
大照寺跡「枝垂桜」
山添村神野山自然公園
奈良若草
カントリー倶楽部
桔梗が丘
名張
名張川



乘馬春風

尾山福田倉治君ヨリ譲ル

大正七年春撮影

大正十一年四月　八歳七

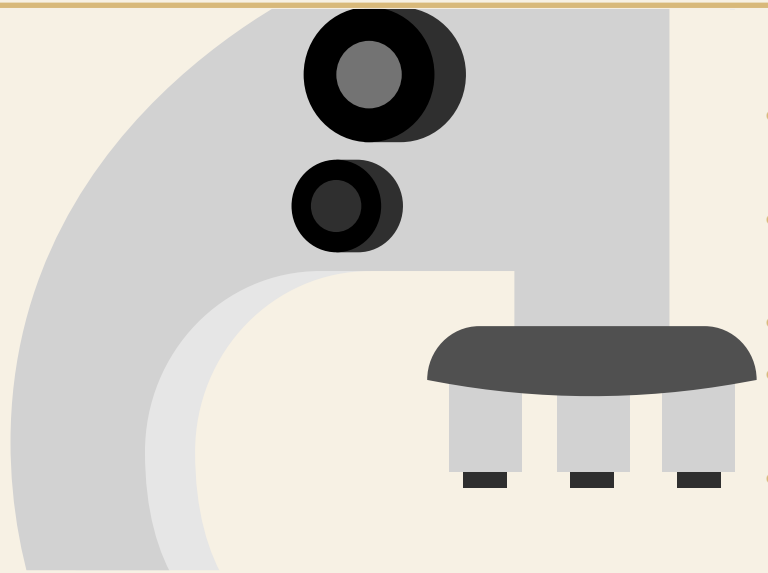
愛飼　十八年間

遺されているもの④

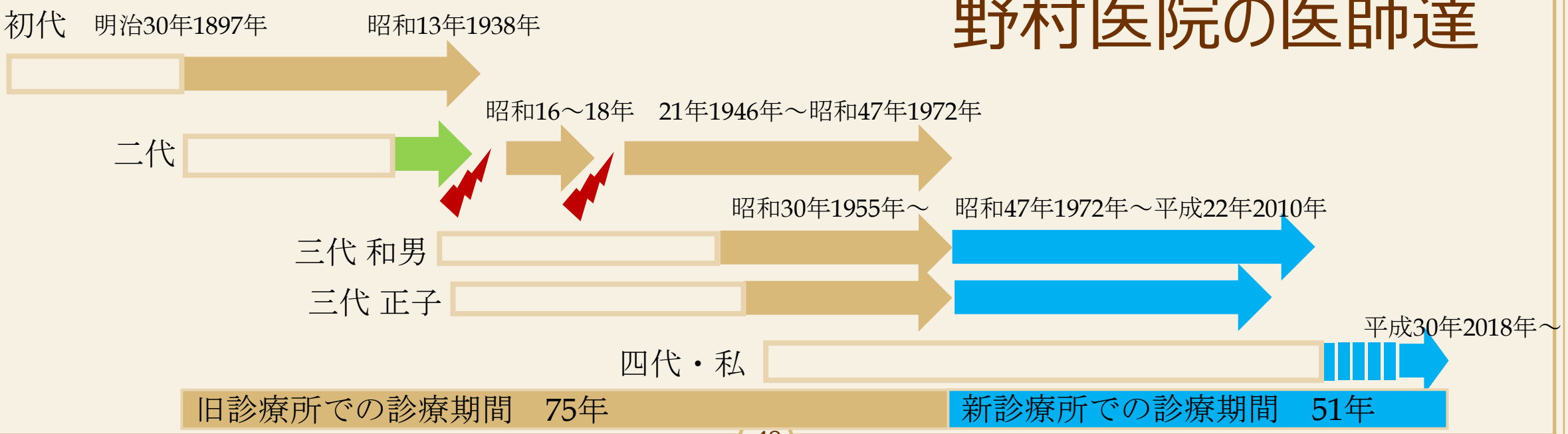
二代　清が大阪市北区国分寺町で
開業した際に用いたもの

フッターを追加

野村医院の医師達



- 初代院長　野村千太郎（明治2年1869年～昭和13年1938年）
- 二代　野村 清　（明治３0年1897年～昭和47年1972年）
- 三代　野村和男　（昭和2年1927年～平成22年2010年）
- 　正子　（昭和3年1928年～平成15年2003年）
- 四代　野村信介　（昭和32年1957年～　）



遺されているもの④

二代　清が大阪国分寺町で開業した際に用いたもの

大正6年（1917年）　官立岡山医学専門学校入学
大正10年(1921年）　同卒業　47,951号医籍登録
　同年　12月1日　歩兵第38聯隊入隊
　同年　　6月1日　～11月30日　京都市松山外科病院に勤務
大正12年（1922年）6月1日　～　大正14年4月30日
大阪回生病院外科に勤務

大正14年（1925年）　4月1日　除隊
　同年　3月31日　三等軍医　（註：少尉相当か？）

大正15年（1926年）6月1日～昭和6年（1931年）7月
大阪市豊崎診療所長として全科診療
昭和6年（1931年）8月～昭和11年（1936年）4月
大阪市北区国分寺町にて全科開業

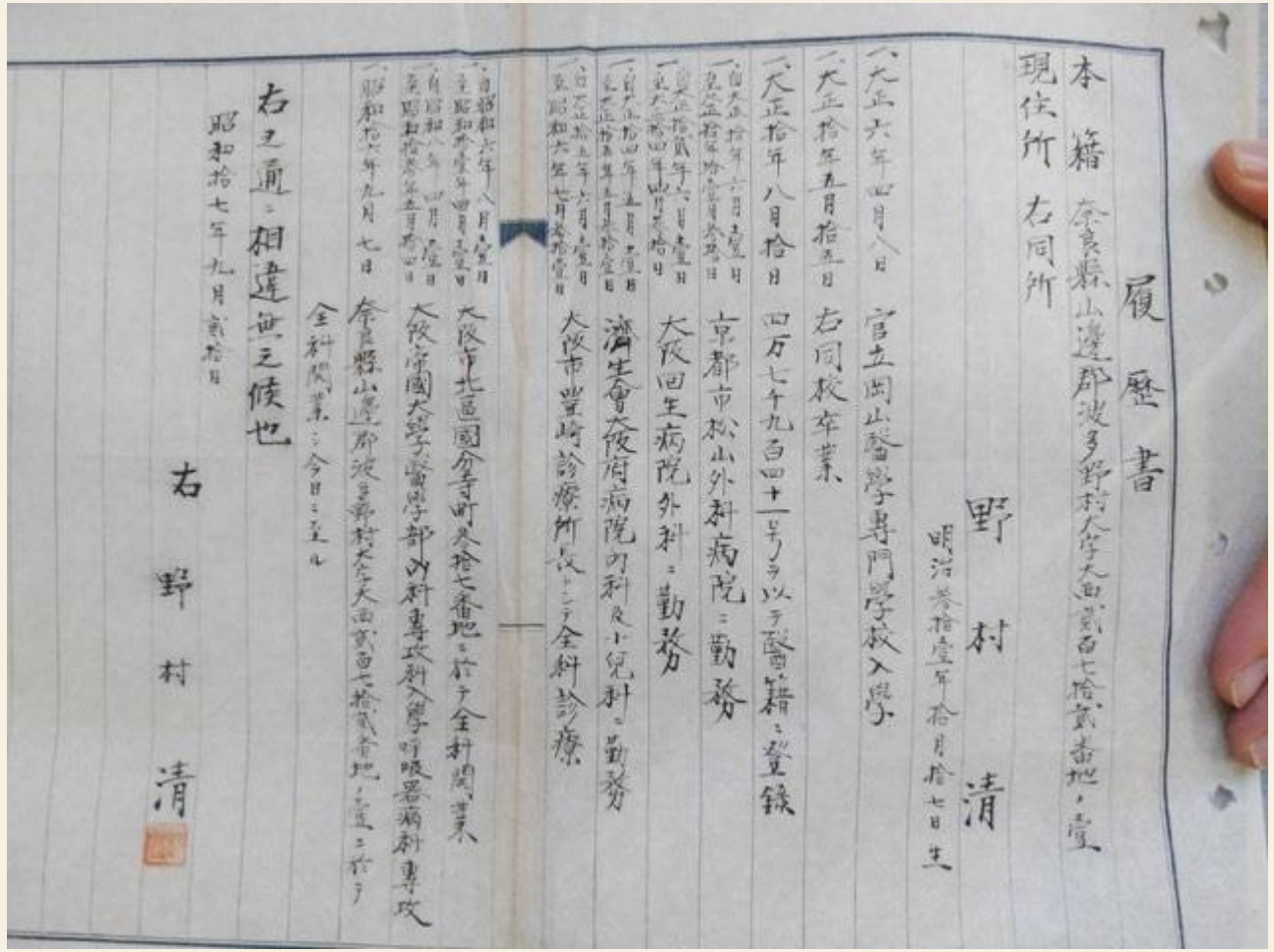
遺されているもの④

二代　清が大阪中津で
開業した際に用いたもの

- 奈良県医師会史（昭和57年刊）p534。
  【三代（父親）が二代･清について述懐している部分を引用】
- ･･･（前略）･･　大正10年･1921年、岡山医専を卒業して京都市松山外科病院や大阪市回生病院外科にて臨床研究し、さらに大阪府済生会中津病院にて内科小児科勤務を経て、大阪市豊崎診療所々長を歴任、夜間開業の傍ら、阪大第三内科に入局、さらに竹尾結核研究所に入所し博士論文研究中に応召し･･･（後略）･･･

遺されているもの④

二代　清が大阪国分寺町で開業した際に用いたもの



履歴書

本籍　奈良縣山邊郡波多野村大字大西貳百七拾貳番地ノ壹

現住所　右同所

野村清

明治拾拾壹年拾月拾七日生

一、大正六年四月八日　官立岡山醫學專門學校入學

一、大正拾年五月拾五日　右同校卒業

一、大正拾年八月拾日　四万七千九百四十一号ヲ以テ醫籍ニ登錄

一、京都市松山外科病院ニ勤務

一、大阪回生病院外科ニ勤務

一、濟生會大阪府病院内科及小兒科ニ勤務

一、大阪市豊崎診療所長トシテ全科診療

一、自昭和六年八月壹日　至昭和拾壹年四月壹日　大阪市北區國分寺町拾七番地ニ於テ全科開業

一、自昭和八年四月壹日　至昭和拾壹年五月壹日　大阪帝國大學醫學部内科專攻科入學呼吸器病科專攻

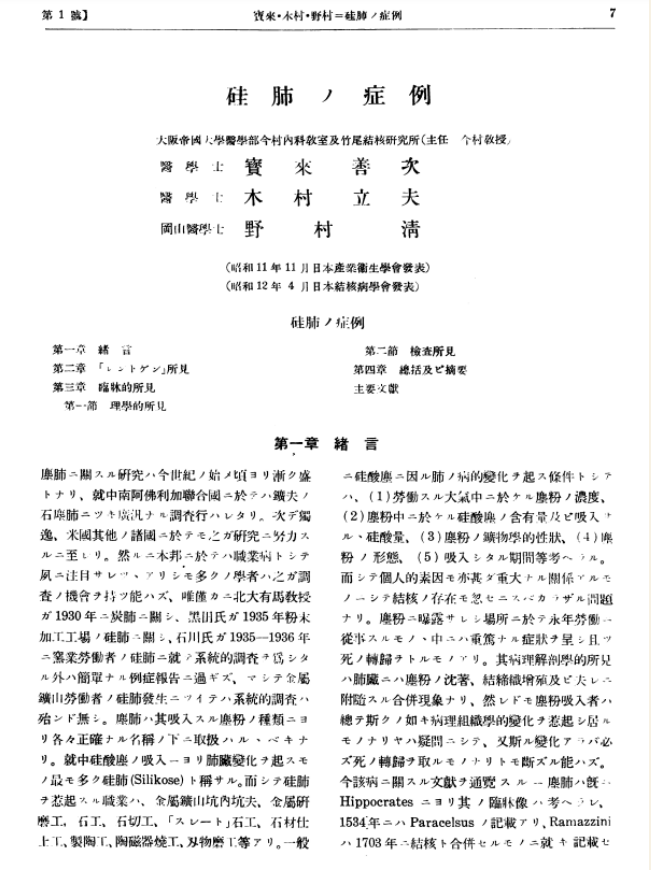
一、昭和拾壹年九月七日　奈良縣山邊郡波多野村大字大西貳百七拾貳番地ニ於テ

全科開業ニ今日ニ至ル

右之通ニ相違無之候也

昭和拾七年九月貳拾日

右野村清



第1編】　寶來・木村・野村ニ硅肺ノ症例　7

硅　肺　ノ　症　例

大阪帝國大學醫學部第一内科教室及竹尾結核研究所（主任　第一内科教授）

醫學士　寶　來　善　次

醫學士　木　村　立　夫

岡山醫學士　野　村　清

（昭和11年11月日本産業衛生學會發表）

（昭和12年4月日本結核病學會發表）

硅肺ノ症例

第一章　緒言

第二章　「レントゲン」所見

第三章　臨牀的所見

第一節　理學的所見

第二節　檢査所見

第四章　總括及ビ摘要

主要文獻

第一章　緒　言

塵肺ニ關スル研究ハ今世紀ノ始メ頃ヨリ漸ク盛トナリ、就中南阿佛利加聯合國ニ於テハ鐵夫ノ石塵肺ニツキ廣汎ナル調査行ハレタリ。次デ獨逸、米國其他ノ諸國ニ於テモ之ガ研究ニ努力スルニ至レリ。然ルニ本邦ニ於テハ職業病トシテ夙ニ注目サレツヽアリシモ多クノ學者ハ之ガ調査ノ機會ヲ持ツ能ハズ、唯僅カニ北大有馬教授ガ1930年ニ炭肺ニ關シ、黒田氏ガ1935年粉末加工工場ノ硅肺ニ關シ、石川氏ガ1935—1936年ニ窯業勞働者ノ硅肺ニ就テ系統的調査ヲ爲シタル外ハ簡單ナル例症報告ニ過ギズ。マシテ金屬鑛山勞働者ノ硅肺發生ニツイテハ系統的調査ハ殆ンド無シ。塵肺ハ其吸入スル塵粉ノ種類ニヨリ各々正確ナル名稱ノ下ニ取扱ハルヽベキナリ。就中硅酸塵ノ吸入ニヨリ肺臓變化ヲ起スモノ最モ多ク硅肺(Silikose)ト稱サル。而シテ硅肺ヲ惹起スル職業ハ、金屬鑛山坑内坑夫、金屬研磨工、石工、石切工、「スレート」石工、石材仕上工、製陶工、陶磁器燒工、及物磨工等アリ。一般ニ硅酸塵ニ因ル肺ノ病的變化ヲ起ス條件トシテハ、(1)勞働スル大氣中ニ於ケル塵粉ノ濃度、(2)塵粉中ニ於ケル硅酸塵ノ含有量及ビ吸入ト、硅酸量、(3)塵粉ノ鑛物學的性狀、(4)塵粉ノ形態、(5)吸入シタル期間等考ヘラル。而シテ個人的素因モ亦甚タ重大ナル關係ヲルモノニシテ結核ノ存在モ忽セニスベカラザル問題ナリ。塵粉ニ曝露サレシ場所ニ於テ永年勞働ニ從事スルモノ、中ニハ重篤ナル症狀ヲ呈シ且ツ死ノ轉歸ヲトルモノアリ。其病理解剖學的所見ハ肺臓ニハ塵粉ノ沈著、結締織增殖及ビ夫レニ附隨スル合併現象ナリ、然レドモ塵粉吸入者ハ總テ斯クノ如キ病理組織學的變化ヲ惹起シ居ルモノナリヤハ疑問ニシテ、又斯ル變化アラバ必ズ死ノ轉歸ヲ取ルモノナリトモ斷ズル能ハズ。今該病ニ關スル文獻ヲ通覽スルニ塵肺ハ既ニHippocratesニヨリ其ノ臨牀像ハ考ヘラレ、1534年ニハParacelsusノ記載アリ、Ramazziniハ1703年ニ結核ト合併セルモノニ就キ記載セ

遺されているもの⑤

二代　清が出征中に
軍医として戦地で記録したもの

- 昭和13年～16年
  第一回応召
  中支

- 昭和18年～21年　（21年5月復員）
  第二回応召
  ラバウル

遺されているもの⑥

二代～三代

戦後～新診療所開設までの
医療道具や記録

- 往診用道具
- 滅菌道具
- 吸入器
- 薬品
- 促販品
- 医療系の雑誌　など

遺されているもの⑦

旧診療所（オールドクリニック）の
建物そのもの、生活のための道具

- 時計
- 椅子
- 書棚、器具棚
- カレンダー、水道、ガス配管

など

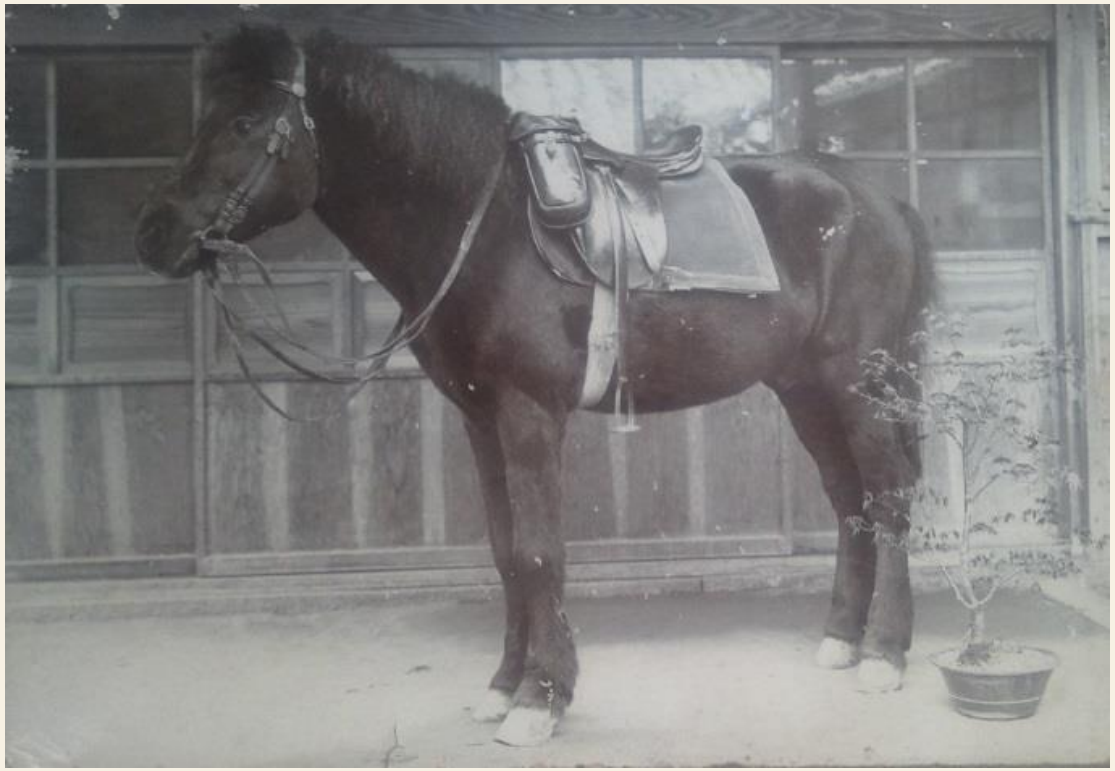
遺されているもの⑧

四代　正子の短歌

- 腹痛を訴ふる翁の肌着よりもみし
  新茶がほろほろと落つ
- 夫は大腿を吾は手首を処置しゆく
  火傷にかけつけし青年寝かせて
- ソックスのゴムくひこみし足伸ばし
  患者百人をこえし一日を思ふ
- ともどもに診療終へたれば食卓に
  夫を待たせて魚を焼けり

遺しているおまけ

初代、二代、三代が往診に用いた馬（の肖像写真）や、往診車



よもやま話

①某日、オールドクリニックのホームページをご覧になった映画会社の小道具担当者が、

訪ねてきた、、、

②某日、古道具屋の主人から、「手に入れた医療器具（と思う）の使い方を教えてくれ」と電話があり、、、

ご清聴ありがとうございました。

検索 ☞ 野村医院 オールドクリニック
山添村